

第2章 国際交流、国際協力

2-1 海外の自治体との姉妹・友好交流等

本県では、米国のコロラド州、中国の黒龍江省、インドネシアのパプア州と姉妹・友好交流を行っており、技術交流や青少年交流、周年行事における首長の相互訪問などの交流を重ねてきています。

1 米国・コロラド州との姉妹交流

1 コロラド州の概要

コロラド州は米国中西部に位置し、州の西半分はロッキー山脈となっています。鉱業、牧畜、石油、兵器を主要産業としてきましたが、近年は通信、精密、電子、航空宇宙、フォトニクス等のハイテク産業が著しく発達しています。1995年には世界最大規模の面積を持つデンバー国際空港が開港、1997年にはデンバーサミットが開催され、1999年には日本国総領事館が開館するなど、90年代に急成長を遂げ、現在も成長を続けている州です。

2 姉妹交流の経緯

- (1) 昭和59年、県知事が東北地域国際投資促進訪米ミッションによりコロラド州を訪問したことを契機に姉妹交流の機運が高まり、昭和61年12月に姉妹県州盟約を締結しました。昭和62年5月からはJETROデンバー事務所に職員を1名派遣し、交流の継続、促進の拠点と位置付けました。
- (2) この拠点を活用しながら、青少年大使の派遣・受入、青年海外派遣、県立各大学の学生研修等に代表される県民の国際交流、さらに農産物アンテナショップ開設、ビジネスミッションの派遣等の産業交流を実施してきました。またコロラド州からも教育者団体の視察、スキー訪問団、各種ビジネスミッション等が派遣されているほか、教師、警察官等、両県州の専門職の交流も進められてきました。

3 交流の主な実績

- (1) 周年交流等
 - ・県代表団、県議会代表団等のコロラド州訪問(S62、H3、H8、H10、H12、H13、H18、H20、H23、H28)
 - ・コロラド州代表団等の来県(S61、H4、H8、H11、H20)
- (2) 青少年交流
 - ・青少年大使の受入、派遣(S63～H10)
 - ・夏休みコロラド生活(H2～H16)
 - ・青年派遣事業(H3～H10)
 - ・青年の相互交流「ユース・イン・アクション」(H14～)
 - ・コロラド州立大学学生による山形大学訪問(H17～)
 - ・青少年オンライン交流(R3～)
- (3) 人材育成
 - ・国際的な感覚や行動力の養成を目的としたコロラド文翔塾(H11～H16)
 - ・地域活動を学ぶコロラド・コミュニティ・アクション講座(H17～H19)
 - ・インターンシップを体験するコロラド地球市民育成講座(H20)
- (4) 高等教育機関間交流
 - ・米沢女子短期大学 — アラパホ・コミュニティ・カレッジ(H2～)
 - ・農林大学校 — モーガン・コミュニティ・カレッジ(H4～)
 - ・産業技術短期大学校 — プエブロ・コミュニティ・カレッジ(H9～)
 - ・保健医療大学 — コロラド大学(H13～)、コロラド州立大学(H14～)
 - ・山形大学 — フォートルイス大学(H13～)、コロラド州立大学(H20～)
 - ・鶴岡工業高等専門学校 — レッドロックス・コミュニティ・カレッジ(H21～)

(5) 文化交流

- ・黒川能、林家舞楽公演 (H3デンバー市、ボルダー市) (※5周年記念事業)
- ・花笠踊り (H8デンバー市) (※10周年記念事業)
- ・国民文化祭にロッキーマウンテン高校合唱団招聘 (H15)
- ・世界こども音楽交流フェスティバル (H16コロラド、H19山形)
- ・コロラド・リコーダー・オーケストラ公演 (H18山形、鶴岡)

(6) 企業姉妹提携、経済交流

- ・山形新聞 - ロッキーマウンテン・ニューズ (H1.5 姉妹提携) ※現在廃刊
- ・山形放送 - KCNC-TV (H1.5 姉妹提携)
- ・農産物アンテナショップの開設 (H1~H2)
- ・山形商工会議所 - 広域デンバー商業会議所 (H2.10 姉妹提携)
- ・日本地下水開発 (株) とWALSH社による土壌・地下水汚染調査共同事業 (H10.6~)
- ・県産酒アメリカ市場販路拡大事業 (H12.9)
- ・株式会社マルトダイの県産酒、海苔等の販売 (H15.8~)

(7) 県駐在員

- ・独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) デンバー事務所 (S62~H11)
- ・コロラド州政府経済開発・国際通商局 (H12~H18、H21)
- ・(財)自治体国際化協会 (CLAIR) ニューヨーク事務所 (H19~H20)

(8) その他

- ・コロラド大学病院での県立中央病院医師の研修 (H19~)
- ・デンバー市街のシャトルバスを参考に山形市中心街地循環バスシステム導入

4 令和4年の交流内容

県関係

- ・山形県コロラド州姉妹県州 35周年記念として、山形城北高校とコロラド・ボルダー高校の学生によるオンライン交流を実施 (山形城北高校:41名、ボルダー高校:51名参加) (1月22日)
- ・花笠プロジェクトと題し、天童市立干布小学校児童が手作りした花笠をコンパス・モンテッソーリ・ゴールデン小学校へ寄贈し、花笠を通じた交流を実施 (6月~11月/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)
- ・コロラド州立大学の教員によるオンライン講義を実施 (11月7日~9日/山形県立保健医療大学)
- ・コロラド日米協会クロードン専務理事が知事を表敬訪問 (11月9日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)
- ・山形県立米沢興譲館高校とコロラド・スモーキーヒル高校の学生によるオンライン交流を4回実施 (11月8日~令和5年2月14日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)

5 交流年表

昭和61年 (1986年)

- ・コロラド州ローマー知事、ビル細川氏等来県し、姉妹県州盟約を締結 (12月2日)

(昭和62年 (1987年) から平成27年 (2015年) まで省略)

平成28年 (2016年)

- ・山形市とボルダー市の姉妹都市締結 20周年を記念して、ボルダー市からの市民訪問団 (8人) を受入れ、市内観光案内や歓迎会等を実施。 (4月18日~21日)
- ・山形県コロラド州姉妹県州 30周年事業として、知事、県議会議員、県議会議員、県酒造組合役員等がコロラド州を訪問し、州政府等への表敬訪問や記念行事などに参加 (8月5日~10日)

平成29年（2017年）

- ・ 県教育委員会実施の「山形県イングリッシュ・ウィンターキャンプ」にコロラド州の高校生5人を招聘（1月20日～23日）
- ・ 山形県コロラド州姉妹県州 30周年事業を契機として企画された小国町での柔道交流事業等のため、コロラド州デンバー柔道交流団が来県（7月1日～6日）

平成30年（2018年）

- ・ 県教育委員会実施の「山形県イングリッシュ・ウィンターキャンプ」にコロラド州の高校生6人を招聘（1月26日～29日）

令和元年（2019年）

- ・ コロラド州オーロラ市のボブ・ラガー市長ほか訪問団が知事を表敬訪問（11月8日）

令和3年（2021年）

- ・ 在デンバー日本国総領事館三上総領事と知事がオンライン会談を実施（11月4日）

2 中国・黒龍江省との友好交流

1 黒龍江省の概要

- (1) 黒龍江省は中国東北部に位置し、天然資源に恵まれ、農業、工業が盛んな省です。
- (2) 省中央部から東北部には肥沃な平原が広がり、大豆、水稲、小麦、トウモロコシ、馬鈴薯などの生産が盛んです。このため、黒龍江省は「北大倉」（北の大穀倉地帯の意味）と呼ばれ、中国の穀物生産基地の一つとなっています。
- (3) 工業では、豊富な天然資源を背景に、重工業が発達してきましたが、近年は、紡績産業や食品工業などにも力を入れており、目覚ましい経済発展を遂げています。

2 友好交流等の経緯

- (1) 戦前、満蒙開拓団として本県から全国で2番目となる17,000名余が派遣されていたことなどから、中国東北部の三省とは以前から深いつながりを有していました。
- (2) 市町村レベルでは、平成2年に大石田町が黒龍江省のハルビン市方正県と、平成4年に長井市が同省双鴨山市と友好提携を行いました。
- (3) また、平成4年5月には、同省のハルビンから松花江、アムール川、日本海を経て酒田港に到る「東方水上シルクロード」が開設されるなど同省との経済交流も活発となりました。
- (4) こうした機運の高まりのもと、平成5年8月10日に友好県省締結。以来、人的交流はもとより、経済、教育、スポーツなどの交流が着実に拡大してきています。

3 交流の主な実績

- (1) 周年交流
 - ・ 5周年記念事業として、省人民政府代表団及び省青年代表団を招聘（H10）
 - ・ 10周年記念事業として、両県省代表の相互訪問（H15）
 - ・ 15周年記念事業として、両県省代表の相互訪問（H20）
 - ・ 20周年記念事業として、本県代表団の省訪問（H25）
※省代表団は大水害の復興対策等で来県取止めとなった。（10月下旬）
 - ・ 山形県ハルビン事務所開設5周年記念事業として、本県代表団の省訪問及び記念交流会の開催（H28）
 - ・ 25周年記念事業として、本県代表団の省訪問（H30）
- (2) 国際交流員、海外技術研修員の受入れ、職員の派遣
 - ・ 黒龍江省人民政府等の職員を国際交流員として受入れ（H6～ ※R2～4を除く）
 - ・ 本県職員を黒龍江大学及び黒龍江省人民政府に派遣（H17～H19）
 - ・ 本県職員を黒龍江大学への留学のため派遣（H22～H26）
 - ・ 農業、工業、医療などの分野で海外技術研修員（42名）を受入れ（H6～H18、H24～）
 - ・ 山形県ハルビン事務所を開設し本県職員を派遣（H23～）
- (3) 環境交流
 - ・ 環境行政分野で海外自治体職員協力交流研修員を受入れ（H11～H14、H16）
 - ・ 「松花江における農薬の水質検査システム構築支援事業」（JICA事業）実施（H18～H20）
 - ・ 「残留農薬分析技術の普及による松花江の環境保全支援事業」（JICA事業）実施（H21～H23）
 - ・ JICA事業実施に向けた環境交流調査（H17、H20、H23、H27）
 - ・ 「有害大気汚染物質モニタリング技術の普及による黒龍江省の大気環境保全支援事業」（JICA事業）実施（H25～H27）
 - ・ 「土壌汚染物質分析技術の普及支援による黒龍江省の環境保全支援事業」（JICA事業）実施（H28～H30）

(4) 教育・スポーツ・文化交流

- ・選手・コーチの相互訪問によるスポーツ交流 (H6～H14、H15はSARSのためスポーツ用具の寄贈)
- ・日中高校生文化交流事業により、高校生の相互訪問 (H11)
- ・県書道連盟及び黒龍江省書法家協会の主催による日中書道交流展相互開催 (H16)
- ・東北公益文科大学が短期留学生を派遣 (H18～H21黒龍江大学、H23～東北林業大学)
- ・2010日本青年訪中代表団・地域間交流 (山形) 分団40名が黒龍江省等を訪問 (H21)
- ・山形県黒龍江省大学教育交流視察団44名が訪中し、ハルビン市で黒龍江省人民政府及び東北林業大学を表敬。ジャムス市で同市人民政府及びジャムス職業教育集団管理委員会表敬並びに現地の高等教育機関等視察 (H27)
- ・ハルビン市の児童等167名が来県し、県内の小学校を訪問 (H27)
- ・ハルビン市の児童等136名が来県し、県内の小学校及び中学校を訪問 (H28)
- ・ハルビン市青少年文化芸術団87名が来県し、「国際文化交流会」に参加 (H27)
- ・ハルビン市少年芸術文化訪問団72名が来県し、「国際文化交流会」に参加 (H28)
- ・ハルビン市少年芸術文化訪問団198名が来県し、「国際文化交流会」に参加 (H30)
- ・県書道連盟及び黒龍江省書法家協会の主催による日中書道交流会 (H30)
- ・スキー交流訪問団受入 (H31)

(5) 経済交流

- ・県経済代表団が黒龍江省を訪問 (H7、H8、H13) 黒龍江省経済考察団の来県 (H7、H9)
- ・中国ハルビン国際経済貿易商談会に毎年参加 (H8～)
- ・観光プロモーション訪日団の来県 (H13) 旅行観光キャンペーン団の来県 (H14)
- ・国際定期路線開設に向け、定期チャーター便運航 (H10:13便、H11:11便、H12:13便、H13:13便、H14:3便、H15はSARS等で運航中止)
- ・「やまがたフェア イン ハルビン」の開催に合わせ、庄内空港とハルビン空港を結ぶ初の双方向チャーター便運航 (H24)
- ・黒龍江省農業視察団の来県 (H29)
- ・黒龍江省介護視察訪問団の来県 (H30、H31)
- ・黒龍江省国際博覧発展促進センター訪問団の受入れ (R1)

4 令和4年の交流内容

- ・黒龍江省主催の北京オリンピック開催関連オンラインイベントに県及び長井市が参加 (1月20日/長井市、国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)
- ・「朱鷺杯」中日友好青少年囲碁大会 (中国駐新潟総領事館主催) に、本県から10代のアマチュア棋士4名が参加。中国側は黒龍江省のほか吉林省と湖北省、日本側は、新潟県、宮城県、福島県の棋士も参加し交流を実施 (8月10日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)
- ・黒龍江省との定期協議をオンラインで実施 (3月30日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課)
- ・黒龍江省ハルビン市で「山形県ハルビン事務所」を運営 (県産品流通戦略課)

5 交流年表

平成2年 (1990年)

- ・大石田町と方正県が友好提携 (1月20日)

平成4年 (1992年)

- ・長井市と双鴨山市が友好提携 (5月21日)

平成5年 (1993年)

- ・山形県・黒龍江省友好県省締結 (8月10日)
- ・「環日本海・山形県議会代表団」訪中 (10月)

(平成6年(1994年)から平成27年(2015年)まで省略)

平成28年(2016年)

- ・ハルビン市青少年文化芸術交流団87名が来県し、本県の音楽団体との合同演奏会を通じた国際文化交流会を開催(1月15日～17日)
- ・黒龍江省政府外事弁公室職員3名が定期協議のため来県(3月21日～22日)
- ・第3回中国ーロシア博覧会(第27回中国ハルビン国際経済貿易商談会)参加(6月15日～19日)
- ・山形県ハルビン事務所開設5周年記念事業のため、知事が黒龍江省政府、黒龍江省人民代表大会常務委員会等を訪問(7月3日～6日)
- ・日中友好第27次山形県民のつばさ(団長:知事)訪中(7月3日～6日)
- ・ハルビン市の小学生児童等92名及び中学生生徒等39名が本県を訪れ、県内の観光施設の見学や小中学校での交流を実施(7月12日・19日)
- ・東北林業大学、黒龍江省外国語学院の学生等9名が来県し、東北公益文科大学において短期留学を実施(8月5日～24日)
- ・東北公益文科大学の学生等11名が研修のため中国を訪問し、東北林業大学の学生等と交流したほか、山形県の観光PRを実施(9月7日～14日)
- ・黒龍江省(ハルビン医科大学、黒龍江省病院)から医療分野の技術研修員それぞれ1名を受入れ、県内医療機関(日本海総合病院)において研修を実施(9月11日～28日)
- ・黒龍江省政府外事弁公室王海軍主任、張宇日本処副処長が来県し、県内企業を視察したほか知事と面談(12月13日～14日)

平成29年(2017年)

- ・ハルビン市青少年文化芸術訪問団72名が来県し、本県の音楽・芸能活動団体と音楽活動を通じた国際文化交流会を実施(1月13日～14日)
- ・JICA草の根技術協力事業「土壌汚染物質分析技術の普及支援による黒龍江省の環境保全支援事業」実施
省内環境モニタリング部門担当職員2名を受入れ(2月5日～3月5日)、県環境科学研究センターで研修
- ・県職員2名が定期協議のため訪中(3月15日～17日)
- ・第4回中国ーロシア博覧会(第28回中国ハルビン国際経済貿易商談会)参加(6月15日～19日)
- ・黒龍江省から農業視察訪問団、商務庁長副庁長以下24名が来県(6月26日～28日)、山形県産米ブランド化セミナー及び農業ビジネス企業交流会の開催、県内企業等視察を実施
- ・黒龍江省双鴨山市政府文化交流中心顧問ほか8名が長井市を訪問し、長井市幹部との意見交換及び市民と書を通じた文化交流を実施(6月29日～30日)
- ・長井市副市長ほか11名が双鴨山市を訪問し、同市政府との会見、意見交換及び市内視察を実施(8月7日～11日)
- ・JICA草の根技術協力事業「土壌汚染物質分析技術の普及支援による黒龍江省の環境保全支援事業」実施
黒龍江省環境モニタリングセンター担当職員2名を受け入れ(8月27日～9月17日)、県環境科学研究センターで研修、県環境科学研究センター職員2名を、黒龍江省環境モニタリングセンターへ派遣(11月6日～17日)
- ・黒龍江省双鴨山市政府副市長ほか4名が長井市を訪問し、長井市幹部との意見交換及び同市内企業視察等を実施(11月6日～7日)
- ・東北公益文科大学の学生等11名が研修のため中国を訪問し、東北林業大学の学生等と交流(9月8日～15日)

- ・黒龍江省（ハルビン医科大学附属**腫**瘤医院、黒龍江省医院）から医療分野の技術研修員それぞれ1名を受入れ、県内医療機関（日本海総合病院）において研修を実施（10月1日～18日）
- ・黒龍江省貿易促進委員会黒龍江省委員会副会長以下3名が来県。第29回中国ハルビン国際経済貿易商談会に関する意見交換を実施（12月26日～28日）

平成30年（2018年）

- ・国連世界観光会議への参加及び県内視察のため、外事弁公室副主任他担当者3名が来県（2月1日～2日）
- ・黒龍江省黒河市旅遊発展委員会主任等計3名が県内視察のため来県（4月25日～28日）
- ・黒龍江省商務庁副庁長及び看護学校関係者計5名が県内大学関係者等との意見交換のため来県（5月7日～9日）
- ・第5回中国－ロシア博覧会（第29回中国ハルビン国際経済貿易商談会）参加（6月15日～19日）
- ・友好県省締結25周年記念事業の一環として、ハルビン市芸術文化訪問団191名が来県し、本県の音楽・芸能活動団体と音楽活動を通じた国際文化交流会を実施（7月14日）
- ・JICA草の根技術協力事業「土壌汚染物質分析技術の普及支援による黒龍江省の環境保全支援事業」実施
- ・省内環境モニタリング部門担当職員2名を受入れ（7月22日～8月8日）、県環境科学研究センターで研修、県環境科学研究センター職員2名を、黒龍江省環境モニタリングセンターへ派遣（9月19日～28日）
- ・東北観光推進機構主催の大連トップセールスに知事が参加（8月24日～25日）
- ・ハルビン市で開催された友好県省締結25周年記念式典へ知事等が出席（8月26日～28日）
- ・友好県省締結25周年記念事業の一環として、ハルビン市において県書道連盟及び省書道家協会による書道交流揮毫会を実施（8月27日）
- ・黒龍江省（黒龍江省医院）から医療分野の技術研修員を1名受入れ、県内医療機関（日本海総合病院）において研修を実施（10月22日～11月4日）

平成31年、令和元年（2019年）

- ・友好県省締結25周年記念事業の一環として、現地スキークラブ幹部ら3名を招請しスキーを通じた交流を実施（3月11日～15日）
- ・県職員2名が定期協議のため訪中（4月22日～24日）
- ・東北観光推進機構主催の大連トップセールスアフターフォロー事業として東北6県及び仙台市など連携し、遼寧省及び大連市関係者等を訪問するとともに、「2019大連アカシア祭り・中日文化観光大連交流会」に参加するため、庄内総合支庁長等が訪中（5月22日～27日）
- ・第6回中国－ロシア博覧会（第30回中国ハルビン国際経済貿易商談会）参加（6月15日～19日）
- ・日中経済協力会議INハルビン参加（7月28日～29日）
- ・黒龍江省商務庁のはからいで、深セン市で開催された五常米サミットフォーラムでつや姫をPR（8月28日）
- ・第14回東北アジア国際旅行フォーラム参加（8月31日）
- ・第2回国際米博覧会・緑色食品展覧会出展（10月11日～14日）
- ・黒龍江省国際博覧発展促進センター訪問団の受入れ。副主任以下3名が来県。意見交換を実施
(12月19日)

令和2年（2020年）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として、N95対応マスク5,000枚を黒龍江省に贈呈
(2月22日)
- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として、医療用防護服1,000着を黒龍江省から受贈
(4月30日)

令和3年(2021年)

- ・長井市と双鴨山市がオンライン会議を開催(4月26日)
- ・ハルビン商談会オンライン展示会に出展(6月15日～24日)
- ・山形県－黒龍江省オンライン商談会を開催(8月下旬～10月下旬)
- ・黒龍江省緑色食品産業博覧会オンライン展示会に出展(10月18日～22日)

3 インドネシア・パプア州との姉妹交流

1 パプア州の概要

パプア州（旧イリアンジャヤ州）はインドネシア共和国最大の島、ニューギニア島の中西部に位置しています。同国の東端という地理的事情がありますが、金、銅、天然ガスなど同国の天然資源の1/4以上を保有しており、今後の発展が大いに期待される地域です。また、現在同州では観光開発が進められており、日本で同国内のバリ島の人気が高いように、国際的観光地として脚光を浴びる可能性を秘めた魅力に富んだ地域でもあります。

2022年6月には、インドネシア国会でパプア州から3州を分立する法案が可決され、これによりパプア州は、パプア州、南パプア州、中パプア州、中央山岳パプア州に分割されました。

2 姉妹交流の経緯

- (1) 平成2年8月、県、県議会、日本・インドネシア親善友好県議会議員連盟、雪部隊慰霊会等が中心となり、南方派遣第36師団遺骨収集調査団がイリアンジャヤ州（当時名称、以下同じ）に派遣され、第3次調査団訪問における遺骨引き渡しに際して、同州知事から姉妹県州盟約締結の提案がなされました。県では州政府および関係機関と姉妹盟約の締結にむけて協議を重ねるとともに、平成4年から農業技術研修員2名を受け入れるなど交流の基盤整備を進めました。
- (2) 平成6年6月、同州において「平和友好の碑」除幕・追悼式が挙行され、同時に姉妹県州の盟約が締結されました。以来、当初は園芸を中心に始まった技術研修員の受入れが、その後、水産や畜産、保健医療、都市計画、コンピュータなどの分野にも広がったほか、高校生と教育関係者の受入れなどの教育分野での交流、さらには、民族舞踊団招聘などの文化交流にもつながっていきました。
- (3) 民間による草の根交流としては、青年海外協力隊のOBなどで設立された山形パプア友好協会が、日本語指導のための講師派遣や米づくりなどの技術協力に積極的に取り組んでいます。

3 交流の主な実績

- (1) 周年交流等 （151名）
 - ・「平和友好の碑」除幕・追悼式（H6）
 - ・10周年記念訪問団の派遣（H16）
 - ・県、県議会等代表団及び事務協議団の訪問（H7、H9、H12、H14）
 - ・州代表団の来県（H6、H8、H10、H13、H15、H22、H24）
 - ・15周年記念訪問団の派遣（H21）
 - ・20周年記念訪問団の派遣（H26）
- (2) 教育・文化交流 （143名）
 - ・全国高等学校総合文化祭プレイベントに高校生を招聘（H10）
 - ・日本語を学ぶ高校生来県、高校での学校交流やホームステイを実施（H17、H18）
 - ・教育関係者、教育視察団の来県（H17、H18）
 - ・民族舞踊団の来県（H15、H18）
 - ・(財)山形県国際交流協会等による「山形の民話を題材にした日本語副読本の作成とパプア州における活用支援事業」（H19）
 - ・(財)山形県国際交流協会等による「パプア州の伝説・民話を題材とする紙芝居の制作と研究支援事業」（H21～H22）
 - ・「パプア州における日本語学習支援事業」による日本語教材の贈呈や日本語教師、高校生の招へい（H22）
 - ・「パプア州青少年交流事業」によるパプア州若手日本語教師、高校生の招へい及び日本語講師等の派遣（H23）

- ・「パプア州日本語教育支援事業」によるパプア州若手日本語教師、高校生の招へい（H24）

(3) 技術研修員受入れ（48名）

- ・研修分類別（海外技術研修員38名、自治体研修員7名、日本語指導研修員3名）
- ・研修先別（山形県40名、山形大学4名、山形短期大学3名、山形済生病院1名）
- ・研修分野別（農業30名、日本語5名、保健医療2名、その他11名）

(4) 技術協力

- ・農業教育基盤整備促進事業による県農業教育専門家の派遣（H8～H11）
- ・技術協力調査派遣（9名）（H17、H20、H24、H27）
- ・「パプア州地域保健向上協力事業」（JICA事業）により、山形大学医学部においてチャンドラワシ大学地域保健学部教官の研修を実施（各年2名）（H19～H21）
- ・「パプア州水稲種子生産技術確立事業」（JICA事業）により、県農業総合研究センターにおいてパプア州農業園芸局等の職員の研修を実施（各年3名）（H22～24）
- ・「パプア州水稲栽培技術向上支援事業」（JICA事業）により、県農業総合研究センターにおいてパプア州農政局等の職員の研修を実施（各年3名）（H25～27）
- ・「パプア州大豆栽培技術向上支援事業」（JICA事業）により、県農業総合研究センターにおいてパプア州食用作物園芸局の職員の研修を実施（3名）（H29）
- ・「パプア州大豆栽培技術向上支援事業」（JICA事業）により、県農業総合研究センターにおいてパプア州食用作物園芸局の職員の研修を実施（3名）（H30）
- ・「パプア州農業普及員の普及能力向上と住民組織化による農業技術改善プロジェクト」（JICA事業、県が事業提案し、NPO法人山形パプア友好協会を指定団体として実施）を実施中（R4～R6）

(5) NPO山形パプア友好協会

- ・令和5年3月末までに、37回の海外事業を実施
- ・日本語、農業の講師を短期派遣等

(6) 慰霊巡拝団等（76名）

- ・慰霊巡拝団の訪問（H6、H7、H9、H16、H21、H26）

4 令和4年の交流内容

- ・外務省「対日理解促進交流プログラム」によりパプア州の自治体職員8名が来県（11月11日～12日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課）
- ・山形県立山形中央高校とパプア州立スポーツ高校の生徒によるオンライン交流（11月17日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課）
- ・「パプア州農業普及員の普及能力向上と住民組織化による農業技術改善プロジェクト～山形パプア明るい農村プロジェクト～」(2022年6月～2025年5月)を実施。現地に業務調査員を長期派遣。研修員3名が本県にて研修実施（12月14日～18日/国際人材活躍・コンベンション誘致推進課、庄内町）

5 交流年表

平成2年（1990年）

- ・遺骨収集に向け県独自の県第一次調査団派遣（8月）
- ・遺骨引渡式、両県州知事による友好の共同声明（12月）

平成3年(1991年)

- ・イリアンジャヤ州代表団の来県(スエブ知事ほか18名、4月25日～27日)

平成4年(1992年)

- ・イリアンジャヤ州から海外技術研修生受入れ開始(H17まで毎年受入れ)

平成6年(1994年)

- ・海外技術研修生フォローアップ調査団派遣(2月12日～21日)
- ・「平和友好の碑」除幕・追悼式、姉妹県州締結調印(6月9日)
- ・イリアンジャヤ州知事、議長外訪問団来県(11月)

(平成7年(1995年)から平成27年(2015年)まで省略)

平成28年(2016年)

- ・外務省「対日理解促進交流プログラム」によりパプア州高校生(18名)が県庁訪問(10月14日)
- ・パプア州国境国際協力委員会委員長等3名来県(12月17日～12月19日)
- ・JICA草の根技術協力事業「パプア州大豆栽培技術向上支援」を開始

平成29年(2017年)

- ・山形市文化振興課創造都市推進事業「やまがたフィルムパッケージ事業」(山形パプア友好協会に委託)により、パプア州に於いて山形に関する映画を上映(2月6日～2月10日)
- ・JICA草の根技術協力事業「パプア州大豆栽培技術向上支援事業」により、研修員(3名)を受入れ、県農業総合研究センター及び民間企業等において研修(8月28日～10月8日)
- ・JICA草の根技術協力事業の現地指導のため、農業専門家を派遣(山形パプア友好協会2名)(11月6日～11月21日)

平成30年(2018年)

- ・JICA草の根技術協力事業の現地指導のため、農業専門家を派遣(山形パプア友好協会2名)(1月30日～2月13日)
- ・山形市創造都市推進協議会事業「やまがたフィルムパッケージ to the world」(山形パプア友好協会に委託)により、パプア州に於いて山形に関する映画を上映(2月19日～2月23日)
- ・JICA東京センターにおいて、「インドネシア国パプア・西パプア公務員人材育成研修」により来日したパプア州政府職員他25名に対して、本県職員が本県とパプア州との交流について講義(7月10日)
- ・JICA草の根技術協力事業「パプア州大豆栽培技術向上支援事業」により、研修員(3名)を受入れ、県農業総合研究センター及び民間企業等において研修(8月27日～10月7日)
- ・外務省が、遺骨収集事業と日本の文化・歴史等について理解を得るため、インドネシア・パプア州内の知事等(スピオリ県、ビアク・ヌンフォル県、ジャヤプラ市)を日本に招へいし、来県(10月11日～10月13日)
- ・JICA草の根技術協力事業の現地指導等のため、農業専門家を派遣(山形パプア友好協会2名、県職員2名)(11月3日～11月19日)

平成31年、令和元年(2019年)

- ・山形市創造都市推進協議会事業「やまがた映画パッケージ」(山形パプア友好協会に委託)により、パプア州の学校に於いて山形の映像を上映(3月11日～3月14日)

- ・ J I C A草の根技術協力事業の新規事業提案に係る現地調査を実施（県職員 1 名、専門家 1 名）
（8月5日～8月11日）

令和 2 年（2020年）

- ・ 外務省「対日理解促進交流プログラム」によりパプア州の自治体職員 9 名が来県（1月31日）

姉妹友好県省州指標

令和5年5月末現在

		米国 コロラド州	中国 黒龍江省	インドネシア パプア州 (旧イリアン・ジャヤ州)	山形県
	面積	269,601km ²	473,000km ²	312,224km ²	9,323km ²
	人口	583.9万人	3,099万人	560万人	104万人
	州省県都	デンバー市	ハルビン市	ジャヤプラ市	山形市
	州県都人口	71.1万人	943.2万人	33.4万人	24.4万人
シ ン ボ ル	県花・ 州代表種	ロッキー・マウンテン・ オダマキ (ソライロオダマキ)	ハマナス ライラック	ラン	べにばな
	県木・ 州代表種	コロラドウヒ	紅松	マトワ	さくらんぼ
	県鳥・ 州代表種	カタシロクロシトド	白鳥 (省の形に由来)	極楽鳥(チャンドラワシ)	オシドリ
産 業	農産物	畜産・とうもろこし	大豆、じゃがいも とうもろこし、小麦 水稲	甘薯、キャッサバ、 果物、米、木材、 水産物(エビ、マグロ)	米、畜産、果樹
	工業製品	航空宇宙機器 電子機器	自動車、化学工業 食品、電子、医薬	木材加工、ヤシ油	電気機械、食品、 繊維
	地下資源	石炭、金、鉛	石油、グラファイト	金、銅、天然ガス	けい砂
	知事	ジャレド・ポリス	(省長)梁 恵玲	不在	吉村 美栄子
	行政区画・ 自治体数	271自治体	12地級市、1地区(大興 安嶺地区)、4地域轄 区、18市(県レベル)、 46県(1自治区含む)、 63市直轄区	1政令市 28県 576都 5,549村	35市町村
州 省 県 都 の 気 温	冬	1月最低気温 -12.0℃	1月平均気温 -17.9℃	年間を通じ高温で、気 温差が少ない 最低気温 25.4℃ 最高気温 31.5℃	2月平均最低気温 -3.3℃
	夏	7月最高気温 30.0℃	7月平均気温 21.7℃		8月平均最高気温 30.4℃
	締結年月日	1986年12月2日	1993年8月10日	1994年6月9日	—

4 市町村の姉妹・友好交流等

県内の19市町村（10市、7町、2村）が、16の国と地域の35自治体と姉妹・友好都市交流を行っており、青少年交流や首長の相互訪問などの交流を重ねてきています。

相手地域の内訳はアジア12（うち中国8）、北米8（うち米国7、カナダ1）、ヨーロッパ10、大洋州4、南米1となっています。このうち中国の3都市、米国の3都市は県の姉妹友好州省内の都市であり、県と市町村の姉妹交流は、相互に影響しながら発展していると言えます。

最も歴史のある姉妹盟約は、鶴岡市とニューブランズウィック市（米国ニュージャージー州）の昭和35年6月10日です。

近年は、新型コロナウイルスのパンデミックにより自由な往来が制限されましたが、オンラインを活用し、より多くの相手と幅広い交流をしている事例が見受けられます。

図 2-1-1 山形県及び県内市町村の姉妹友好州省・都市

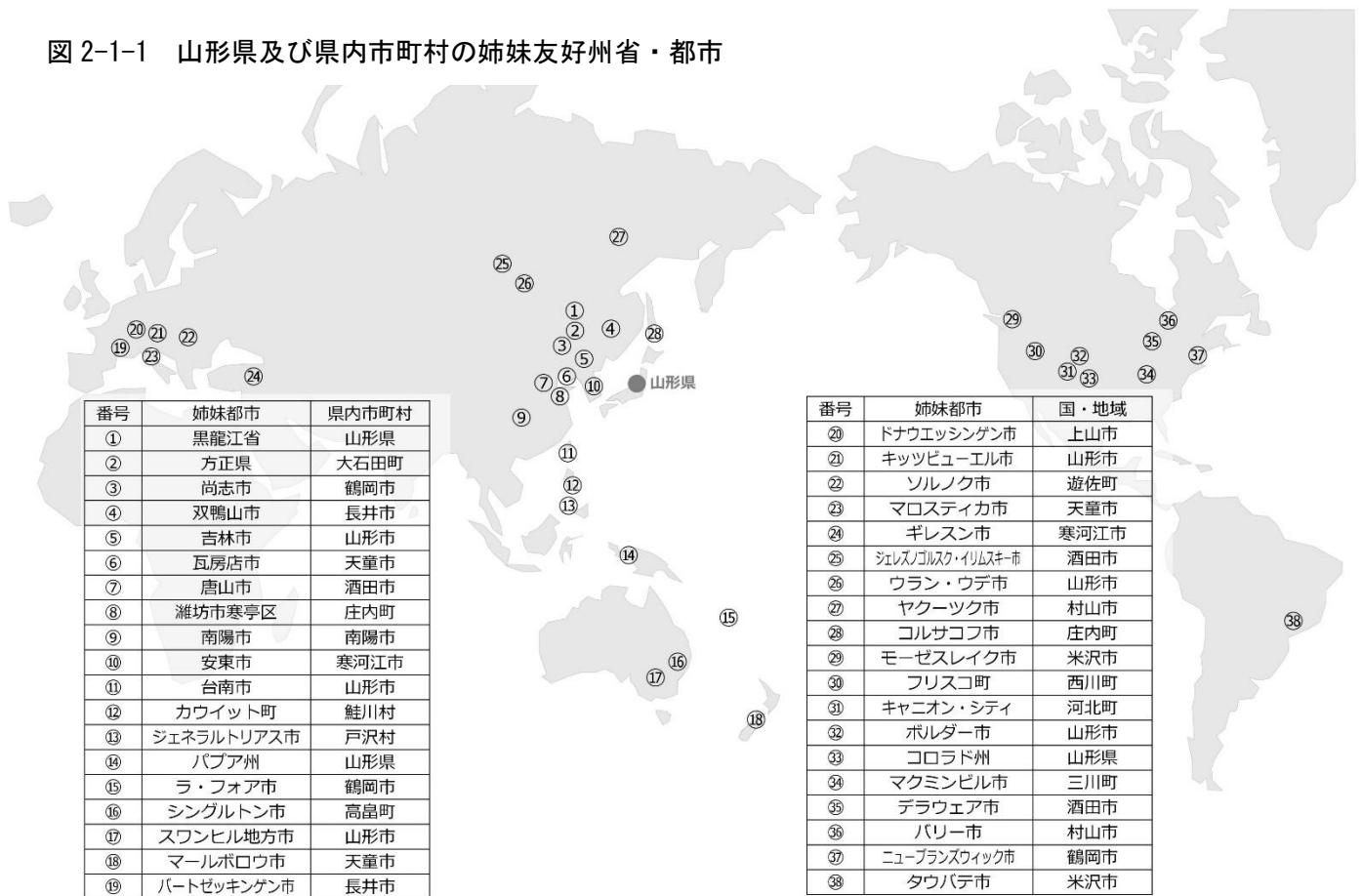


表2-1-1 県内市町村の姉妹・友好都市

市町村	姉妹都市	提携年月	国・地域
山形市	キッツビューエル市	昭和38年2月17日	オーストリア共和国
	スワンヒル地方市	昭和55年8月6日	オーストラリア連邦
	吉林市	昭和58年4月21日	中華人民共和国
	ウラン・ウデ市	平成3年2月16日	ロシア連邦
	ボルダー市	平成6年4月22日	アメリカ合衆国
	台南市	平成29年12月6日	台湾
米沢市	タウバテ市	昭和49年1月28日	ブラジル連邦共和国
	モーゼスレイク市	昭和56年5月1日	アメリカ合衆国
鶴岡市	ニューブランズウィック市	昭和35年6月10日	アメリカ合衆国
	ラ・フォア市	平成7年2月9日	フランス領ニューカレドニア
	尚志市	平成12年10月25日	中華人民共和国
酒田市	ジェレズノゴルスク・イリムスキー市	昭和54年10月8日	ロシア連邦
	唐山市	平成2年7月26日	中華人民共和国
	デラウェア市	平成29年4月19日	アメリカ合衆国
寒河江市	安東市	昭和49年2月4日	大韓民国
	ギレスン市	昭和63年6月25日	トルコ共和国
上山市	ドナウエッシンゲン市	平成7年3月21日	ドイツ連邦共和国
村山市	ヤクーツク市	平成4年4月21日	ロシア連邦
	バリー市	平成29年10月30日	カナダ
長井市	バートゼッキンゲン市	昭和58年9月8日	ドイツ連邦共和国
	双鴨山市	平成4年5月21日	中華人民共和国
天童市	マロスティカ市	平成元年4月22日	イタリア共和国
	マールボロウ市	平成元年7月7日	ニュージーランド
	瓦房店市	平成14年5月27日	中華人民共和国
南陽市	南陽市	昭和63年10月6日	中華人民共和国
河北町	キャニオン・シティ	平成5年10月20日	アメリカ合衆国
西川町	フリスコ町	平成2年8月29日	アメリカ合衆国
大石田町	方正県	平成2年1月20日	中華人民共和国
鮭川村	カウイット町	昭和63年6月30日	フィリピン共和国
戸沢村	ジェネラルトリアス市	平成元年8月11日	フィリピン共和国
高畠町	シングルトン市	平成17年10月2日	オーストラリア連邦
三川町	マクミンビル市	平成6年8月2日	アメリカ合衆国
庄内町	コルサコフ市	平成4年7月23日	ロシア連邦
	濰坊市寒亭区	平成24年8月21日	中華人民共和国
遊佐町	ソルノク市	平成12年11月4日	ハンガリー共和国

<19市町村>

<35自治体>

<16か国・地域>

州 省	姉妹交流開始の経緯
チロル州	「銀嶺の王者」映画撮影で来形したトニー・ザイラー氏等とのスキー交流による。
ビクトリア州	山形ロータリークラブの交流による。
吉林省	山形市民のつばさ訪中団の訪問と、経済交流の進展。
ブリヤート共和国	日ソ(当時)沿岸市長会議による。
コロラド州	ボルダー市長の山形市訪問、山形市女性友好訪問団の派遣等の相互交流による。
	台南市進出口商業同業公會と山形商工会議所の経済交流による。
サンパウロ州	田村電気製作所の工場進出。
ワシントン州	両市のロータリークラブ、ライオンズクラブの交流。
ニュージャージー州	庄内藩士高木三郎のラトガス大学への留学を機縁とし、日米修好100周年を記念し姉妹提携。
南部州	1990年5月のラフォア市長の鶴岡市訪問による。
黒龍江省	県レベルで友好関係のある黒龍江省内にあり、かつ省都ハルビン近郊にある都市との姉妹交流を希望したことによる。
イルクーツク州	第3回日ソ沿岸市長会議の際に姉妹都市の申し出を受けた。
河北省	1976年7月の唐山市の地震、同10月の酒田市の大火から復興した市として。
オハイオ州	酒田市教育委員会が1996年度以降継続して行っている青少年国際理解促進事業「はばたき」を契機としている。
慶尚北道	駐仙台韓国総領事の紹介による。
黒海沿岸(ギレスン県)	さくらんぼの原産地。
バーデン・ヴェルテンベルク州	上山市生誕の歌人斎藤茂吉の随筆「ドナウ源流行」より、縁の地として市民が選考。
サハ共和国	村山市生誕の探検家最上徳内が縁で日ソ沿岸市長会に入会し、第13回会議で提案がなされた。
オンタリオ州	全国市長会の代表として当時の市長がバリー市を訪問。その後両市長が相互訪問し交流が進展。
バーデン・ヴェルテンベルク州	1977年の日独スポーツ少年団同時交流事業で、ドイツ参加者のホームステイを受け入れた。
黒龍江省	長井市出身の(故)村上栄太氏が在住していたことから交流が進展。
ヴェネト州	人間チェスと人間将棋の開催地。
マールボロウ	1981年山形県農業事情視察団で市民がブレナム市(当時)を訪問したことによる。
遼寧省	1994年に、市内の食品加工会社が瓦房店市に法人(工場)を設立したことによる。
河南省	同じ名称。1984年の中国南陽市を訪問する会の訪中による。
コロラド州	1992年、ジェトロデンバー事務所の紹介で、キャニオンシティ市代表団が来町したことによる。
コロラド州	第3次西川町総合開発計画「クオリティ・ライフにしかわ」の国際交流推進計画として選定した。
黒龍江省	1988年の町長訪問による。
カビディ州	1988年の村長訪問による。
カビデイ州	最上広域国際交流センター在マニラ連絡所の設立と同所主催による村長訪問による。
ニューサウスウェールズ州	平成8年から実施しているシングルトンハイスクールとの相互交流が10年目を迎えたことによる。
テネシー州	町の誘致企業(株)ヨロズエンジニアリングの系列企業があり、同企業の橋渡しによる。
サハリン州	庄内中央青年会議所10周年記念時に日本青年会議所ロシア関係委員会による橋渡しを受けた。
山東省	庄内町日中友好協会が中国との友好交流先を探していたところ、東北大学卒業生で仙台市在住の医師より、自身の出身地である同区が交流の意思があるとの情報提供を受け、締結に至ったもの。
ヤースナジクンソルノク県	遊佐町青年団の交流による。

2-2 海外の山形県人会との交流

1 概要

国策に基づく移住者として、本県からも多くの方々が戦前からブラジルやパラグアイ、アルゼンチン、ペルーなどに渡り、困難を乗り越え日系社会の向上に尽力してこられました。

現在、そうした移住者による海外の山形県人会はブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、ペルー、ハワイ、北米南カリフォルニアの6か所にあり（表2-2-1）、会員相互の親睦をはじめ、会員の援護、子弟の教育などに関わる事業を積極的に展開し、本県と各国との相互理解の深化と友好親善の発展に大きく貢献してきました。特に南米の各県人会との交流は、日本人移民の草分けとされる本県出身の鈴木貞次郎氏（ブラジル）、伊藤清蔵氏（アルゼンチン）の存在に由来するものです。先人の遺志を受け継ぎ海外へ移住された県人の活動は、我が国と移住先国との関係の緊密化、友好親善の増進等に貢献していることから、県としても、海外県人会を通じて、様々な支援や交流を実施してきました。

2018年には、ハワイ山形県人会設立50周年記念祝賀会に出席するため、9月に知事、県議会議長がハワイ山形県人会を訪問し、県及び県議会からのお祝いを贈呈しました。また、10月には、創立65周年を迎えたブラジル山形県人会を、副知事及び県議会副議長が訪問し記念式典に出席、会員と交流を深めました。各県人会との話し合いでは、今後とも、交流・連携を緊密にして、交流を一層活発化していくことが確認されました。

各県人会では世代交代が進みつつあることから、これまで培ってきた友好の絆を、お互い新しい世代にも引き継ぐことにより、県人三世、四世等との交流を通じて本県との絆を強化し、交流を継続していきます。

加えて近年、企業の海外進出の増加に伴い、東アジアにおいて、海外駐在者等による新たな山形県人会結成の動きが見られます。県では、そうした新たな県人会との連携により、経済・観光交流の活発化を図ることとしています。

2 これまでの主な交流

(1) ブラジル

明治39年から昭和53年までの間、5,826人の県人が移住したブラジルとの交流については、ブラジル山形県人会を中心に交流を推進してきました。これまでも、将来にわたる交流の担い手となる人材の育成を目的として、県費留学生交流事業を創設し、県内大学に留学生を受け入れてきました。

○ブラジル県費留学生交流事業（平成11～17年度）

山形県出身のブラジル移住者の子弟に県内大学等で専門知識を習得するかたわら日本文化についての理解を深めてもらうことにより、将来の両国の掛け橋となる人材を育成し、ひいては将来にわたる本県とブラジルとの友好交流の拡大を図ることを目的として、計9名の留学生を受け入れました。

平成11年度：1名（山形女子短大 国文科）

平成12年度：2名（山形大学医学部、山形女子短大 留学生別科）

平成13年度：2名（山形大学医学部、東北芸術工科大学）

平成14年度：1名（東北芸術工科大学）

- 平成15年度：1名（東北公益文科大学）
- 平成16年度：1名（東北芸術工科大学）
- 平成17年度：1名（山形大学地域教育文化学部）

○国境越えて武者修行事業（南米関連修行）（平成16年度）

これまで築いてきた海外県人会とのネットワークを活用し、農業体験実習や交流会、ホームステイなどを通じて、海外の先進的側面に直接触れる機会を提供することにより、国際化に対応できる逞しい人材を育成することを目的に、山形の青年5名をブラジルに派遣しました。

(2) アルゼンチン

平成15年2月に県人会会長が来県、同県人会が取り組むNGO活動について、県としても協力していくことになり、その一環として、平成15年11月から1か月間、県から果樹栽培分野の専門家を現地へ調査派遣しました。その結果、ボリーバル地域における落葉果樹栽培の可能性は低かったものの、国内他地域における日系人農家への技術支援の可能性が認められました。

なお、平成17年度には、県公用車（4輪駆動車）1台をボリーバル市に寄贈しています。

(3) その他

知事と海外山形県人会との意見交換会をオンラインで実施（令和2年10月28日（木））

- ・参加者 県人会：ブラジル、ペルー、南カリフォルニアの県人会幹部 計6名
県：知事、みらい企画創造部長
- ・内容 担い手の確保、育成の取組みなどについて意見交換を実施

3 中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業（総務省委託事業）

(1) 令和3年度（オンライン交流）

県人会の担い手となり得る現地の若者と県内の若者を対象に、以下の内容をオンラインで実施（計6回）

○オンライン意見交換会（ブラジル・ペルーの県人会×東北公益文科大学）

国	日時（日本時間）	内容	参加者
ブラジル	8月1日（日） 午前8時～10時	相手の国の言語で自己紹介、公益大の学生による移住の歴史のプレゼン、フリーディスカッション	公益大：6名 県人会：5名
ペルー	8月8日（日） 午前8時～10時		公益大：5名 県人会：5名

○オンライン国際交流イベント（テーマ：郷土料理、花笠踊り）

テーマ・国	日時（日本時間）	内容	参加者
郷土料理（ペルー）	10月10日（日） 午前8時～9時	郷土料理の紹介・実食、やまがた愛の武将隊・山大花笠サー	県側：22名（うち若者13名） ペルー側：33名（うち若者15名）

郷土料理(ブラジル)	10月17日(日) 午前8時～9時	クル四面楚歌による 演舞、意見交換	県側：24名(うち若者13名) ブラジル側：21名(うち若者7名)
花笠踊り(ペルー)	10月31日(日) 午前8時～9時	山形の伝統文化・祭りの紹介、民謡一家による生演奏、花笠踊りの披露、意見交換	県側：19名(うち若者7名) ペルー側：33名(うち若者15名)
花笠踊り(ブラジル)	11月7日(日) 午前8時～9時		県側：20名(うち若者6名) ブラジル側：44名(うち若者16名)

(2) 令和4年度(若者招聘事業)

県人会の次代を担う若者2名を本県に招聘し、本県中学生との交流などを実施

- ・ 招聘者 ブラジル山形県人会から1名、ペルー山形県人会から1名の計2名
- ・ 期 間 令和5年1月16日(月)～27日(金)11泊12日
- ・ 内 容 ルーツのある地域の中学生との交流、ホームステイ、県内観光地視察、県幹部表敬
- ・ その他 招聘者2名は、県人会に所属する他の若者に対するオンライン発表会を実施

4 その他実施事業

(1) 在外県人会に対する助成

- ・ 山形県国際交流協会を通じて、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、ペルー、ハワイ、北米南加の各山形県人会に助成

(2) 海外移住高齢者寿賀贈呈事業

75歳以上の県出身移住者を対象に、功労に感謝し賀詞を贈呈(17年までは記念品も贈呈)

平成16年度※：ブラジル9名、アルゼンチン2名	平成25年度：ブラジル13名
平成17年度※：ブラジル12名	平成26年度：ブラジル2名
平成18年度：ブラジル6名	平成27年度：ブラジル3名、パラグアイ3名
平成19年度：ブラジル6名	平成28年度：ブラジル2名、パラグアイ2名
平成20年度：ブラジル19名、パラグアイ1名	平成29年度：ブラジル2名
平成21年度：ブラジル14名、パラグアイ2名、 アルゼンチン1名	平成30年度：ブラジル26名、アルゼンチン1名
	令和元年度：ブラジル1名、パラグアイ1名
平成22年度：ブラジル10名、パラグアイ2名	令和2年度：ブラジル4名
平成23年度：ブラジル11名	令和3年度：ブラジル2名
平成24年度：ブラジル12名	令和4年度：ブラジル3名

※16、17年度は、99歳以上(白寿)も対象

表2-2-1 海外の山形県人会

令和5年1月末現在

県人会名	代表者名	設立	会員数	事務所所在地
ブラジル山形県人会	佐藤 マリオ	1953年	168人 165世帯	サンパウロ ※当該年会費納入者を計上
パラグアイ山形県人会	佐藤 隆一	1983年	32人 32世帯	フェルナンド・デ・ラ・モラ
アルゼンチン山形県人会	宮城 力	1965年	128人 22世帯	ブエノス・アイレス
ペルー山形県人会	シルビア 菅野	1917年	245人 91世帯	リマ
ハワイ山形県人会	谷口 アイリス	1968年	27人 21世帯	ハワイ
北米南加山形県人会	池田 淳子	1985年	59人 41世帯	カリフォルニア
香港・華南地区 山形県人会	香港会長 齋藤 徹 華南会長 林原 祐一	2007年 2007年	48名 115名	
タイ・バンコク 山形県人会	齋藤 伸也	1990年	約100名	
台北山形県人会	荒川 信一	2013年	55名	
上海山形県人会	青柳 茂彦	2007年	56名	

表2-2-2 国別移住者数（明治39年～昭和53年）

国名	人数（構成比）	戸数（構成比）
ブラジル	5,826 (94.0)	1,044 (91.9)
ペルー	156 (2.5)	44 (3.9)
アルゼンチン	109 (1.8)	28 (2.4)
パラグアイ	103 (1.7)	20 (1.8)
合計	6,194 (100.0)	1,136 (100.0)

（「海外移住～その歩みと移住案内～」昭和63年3月
（財）山形県海外協会、山形県海外移住家族会）

2-3 技術協力や国際貢献

1 海外技術研修員

海外県人会や姉妹友好州省など、本県と密接な関係を有する国から、将来を担う若者を受け入れ、本県の技術力を活用した専門分野の研修を実施し、相手国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との交流を通じた友好親善を図っています。

この事業は昭和51年度から実施しており、令和4年度までの受入者数は296名となっています。

(令和2年度から4年度は、新型コロナウイルスのパンデミックにより事業中止)

表2-3-1 山形県海外技術研修員受入実績（昭和51年度～令和4年度）

国名 年	ブラジル	アルゼンチン	パラグアイ	ペルー	ボリビア	グアテマラ	ジャマイカ	ドミニカ共和国	エルサルバドル	韓国	中国	マレーシア	タイ	フィリピン	インドネシア	カンボジア	ラオス	スリランカ	バングラデシュ	ブータン	ソロモン諸島	サモア	リベリア	ザンビア	タンザニア	ニジェール	マラウイ	ガーナ	セネガル	エチオピア	ケニア	ボツワナ	エジプト	計		
	計	119	13	18	20	1	1	1	1	1	45	1	1	4	35	2	2	2	3	2	1	1	1	3	2	1	6	3	1	1	1	1	1	1	296	
昭和	51	3	1		1																														5	
	52	3			1																														4	
	53	4			1																														5	
	54	5		1																															6	
	55	6																																	6	
	56	4		1																															5	
	57	3		1							1																								5	
	58	3	1		1																														5	
	59	3	1		1																														5	
	60	3	1	1																															5	
	61	3	1	1									1																						6	
	62	3		1	1									1																					6	
	63	3	1		1														1																6	
元	4		1	1																			1	1										8		
平成	2	4		1	1															1					1									7		
	3	4		1										1							1					1									9	
	4	4	1											1	2							1				1	1								10	
	5	4									1				2							1				1	1		1						10	
	6	4		1	1		1				2				3						1						1								13	
	7	4			1						3				3						1														14	
	8	4		1				1			2				3												1								12	
	9	3		1	1						3			1	3	1												1	1	1					16	
	10	4									3				3	1									1			1	1						14	
	11	3	1						1		3				3		1											1			1	1			15	
	12	3			1	1					3				3		1										1								13	
	13	3	1								3				3						1													1	12	
	14	2	1								3			1	2						1				1										11	
	15	3			1										2																				6	
	16	3		1							2				2																				8	
	17	3										1			1																				5	
	18	1			1							1																								3
	19	1	1																																	2
	20	1		1																																2
	21	1			1																															2
22	1	1																																	2	
23	1		1																																2	
24	1			1							2																								4	
25	1		1								2																								4	
26	1			1							2																								4	
27	1		1								2																								4	
28	1			1							2																								4	
29	1		1								2																								4	
30	1	1									1																								3	
令和	1	1		1							2																								4	
	2																																		0	
	3																																		0	
	4																																		0	

2 JICA海外協力隊

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、発展途上国などにおいて、自分の持つ技術や経験、知識を活かすことを希望する人々の派遣事業を実施しています。

本県では、（公財）山形県国際交流協会等と連携し、募集説明会及び帰国報告会の開催や参加者募集等において協力を行うとともに、JICA海外協力隊（青年海外協力隊、海外協力隊、シニア海外協力隊、日系社会青年海外協力隊、日系社会海外協力隊、日系社会シニア海外協力隊の6種類）のPRや県民の国際理解の増進を図っています。

青年海外協力隊の発足にあたっては、ケネディ大統領が創設した米国の平和部隊を手本としたばかりでなく、本県出身の寒河江善秋氏が提案した青年運動（産業開発青年隊）も、その源の一つとしてあげられています。

(1) 青年海外協力隊・海外協力隊

自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたいと望む満20～69歳の方を派遣するJICAの事業です。

本県からの参加者数は、これまで延べ474人であり（令和5年3月末日現在）、今後も意欲ある方の積極的な参加が望まれています。

表2-3-2 青年海外協力隊・海外協力隊参加者数(山形県出身者・派遣国別)

令和5年3月末日現在（単位：人）

派遣国名	人数			派遣国名	人数		
	男	女	計		男	女	計
アジア 計16か国	76	55	131	大洋州 計8か国	22	16	38
インド	5	-	5	サモア	5	2	7
インドネシア	4	2	6	ソロモン諸島	1	1	2
カンボジア	1	6	7	パプアニューギニア	4	-	4
スリランカ	7	6	13	パラオ	7	-	7
タイ	-	4	4	フィジー	3	4	7
中華人民共和国	3	6	9	マーシャル	-	5	5
ネパール	9	5	14	ミクロネシア	2	3	5
バングラデシュ	6	8	14	中近東 計3か国	-	1	1
東ティモール	1	-	1	エジプト	5	7	12
フィリピン	15	5	20	シリア	1	1	2
ブータン	1	3	4	ヨルダン	3	2	5
ベトナム	1	-	1	アフリカ 計24か国	1	4	5
マレーシア	16	3	19	ウガンダ	113	77	190
モルディブ	-	1	1	エチオピア	5	4	9
モンゴル	3	2	5	ガーナ	9	2	11
ラオス	4	4	8	ケニア	8	12	20
中南米 計18か国	29	59	88	コートジボワール	18	5	23
エクアドル	2	3	5	ザンビア	1	2	3
エルサルバドル	1	2	3	ジブチ	16	4	20
グアテマラ	4	3	7	ジンバブエ	1	1	2
コスタリカ	1	4	5	セネガル	2	4	6
コロンビア	3	1	4	タンザニア	4	4	8
ジャマイカ	1	2	3	チュニジア	16	5	21
セントルシア	1	2	3	ナミビア	3	2	5
チリ	-	2	2	ニジェール	-	1	1
ドミニカ共和国	1	2	3	ブルキナファソ	2	3	5
ニカラグア	3	7	10	ブルンジ	1	3	4
パナマ	-	1	1	ベナン	1	-	1
パラグアイ	2	3	5	ボツワナ	1	4	5
ベネズエラ	-	2	2	マダガスカル	-	3	3
ベリーズ	-	1	1	マラウイ	-	5	5
ペルー	-	4	4	南アフリカ共和国	11	7	18
ポリビア	1	6	7	モザンビーク	1	-	1
ホンジュラス	9	11	20	モロッコ	1	-	1
メキシコ	-	3	3	リベリア	7	6	13
欧州 計5か国	9	6	15	ルワンダ	2	-	2
ウズベキスタン	-	1	1		3	-	3
キルギス	3	5	8				
ブルガリア	2	-	2				
ポーランド	2	-	2				
ルーマニア	2	-	2				
				74か国	254	220	474

(国際人材活躍・コンベンション誘致推進課調べ)

(2) シニア海外協力隊

自分が持っている、専門的な技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたいと望む満20～69歳の方を派遣する J I C A の事業です。

本県からの参加者は令和5年3月末日現在で、合計38人となっています。

表2-3-3 シニア海外協力隊参加者数（山形県出身者・派遣国別）

令和5年3月末日現在（単位：人）

派遣国名	人数			派遣国名	人数		
	男	女	計		男	女	計
アジア 計6か国	6	2	8	中南米 計9か国	10	6	16
インドネシア	2	-	2	ウルグアイ	1	-	1
カンボジア	-	1	1	エクアドル	-	1	1
中華人民共和国	1	-	1	ガイアナ	1	-	1
パキスタン	1	-	1	ドミニカ共和国	1	2	3
モンゴル	-	1	1	ニカラグア	-	1	1
ミャンマー	2	-	2	パラグアイ	3	-	3
大洋州 計5か国	6	1	7	ポリビア	1	-	1
トンガ	1	-	1	ホンジュラス	3	1	4
バヌアツ	1	1	2	メキシコ	-	1	1
パプアニューギニア	2	-	2	中東・アフリカ 計5か国	5	2	7
パラオ	1	-	1	モロッコ	2	1	3
マーシャル	1	-	1	チュニジア	-	1	1
				ガーナ	1	-	1
				モザンビーク	1	-	1
				南アフリカ共和国	1	-	1
				25か国	27	11	38

(3) 日系社会青年海外協力隊、日系社会海外協力隊及び日系社会シニア海外協力隊

日系社会青年海外協力隊及び日系社会海外協力隊は、日系社会で日系人、日系社会の人々と、ともに生活・協働しながら中南米地域の発展のために自分が持っている技術や経験を活かしたいと望む方を派遣する事業です。日系社会シニア海外協力隊は、専門的な技術・知識を活かしたいと望む方が、より専門性の高い案件に派遣される事業です。

本県からの参加者は令和5年3月末日現在で日系社会青年海外協力隊が合計12人、日系社会シニア海外協力隊が合計1人となっています。

表2-3-4 日系社会青年海外協力隊、海外協力隊

（山形県出身者・派遣国別）

令和5年3月末日現在（単位：人）

派遣国名	人数		
	男	女	計
計5か国	2	10	12
アルゼンチン	-	1	1
ドミニカ共和国	-	1	1
パラグアイ	-	4	4
ブラジル	1	3	4
ポリビア	1	1	2

表2-3-5 日系社会シニア海外協力隊

（山形県出身者・派遣国別）

令和5年3月末日現在（単位：人）

派遣国名	人数		
	男	女	計
計1か国	1	0	1
ブラジル	1	0	1

3 独立行政法人国際協力機構（JICA）事業の実施

JICAでは、日本の地方自治体がこれまで培ってきた経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動を支援し、共同で実施する事業として「草の根技術協力事業（地域活性型）」を行っています。地方自治体の持つノウハウやネットワークを最大限に活かし、開発途上国から日本の地域社会への人材の受け入れや、現地における技術指導を組み合わせたきめ細やかな協力の実施が期待されています。

本県では、JICAから当該事業の採択を受け、友好県省の中国黒龍江省及び姉妹県州のインドネシア共和国パプア州と事業を実施しました。

1 中国・黒龍江省との事業

事業名：土壌汚染物質分析技術の確立による黒龍江省の土壌環境保全支援

実施年度：平成28年度～30年度（3か年）

実施機関：山形県環境科学研究センター

事業内容：農薬類や重金属などの土壌に含まれる汚染物質に係る分析技術を確立するため、標準作業手順書の整備・技術普及など、黒龍江省の実情に応じた支援を行う。

【県職員派遣】

平成29年度：2名、平成29年11月6日～11月17日、黒龍江省環境監測センター

平成30年度：2名、平成30年9月19日～9月28日、黒龍江省環境監測センター

【研修員受入】

県環境科学研究センターにおいて黒龍江省からの研修員を受け入れ、同省の土壌に含まれる汚染物質を分析する技術者育成のため、サンプリング、試料の調整や検液の作成、分析測定などの研修を行う。

平成28年度：2名、平成29年2月5日～3月5日

平成29年度：2名、平成29年8月27日～9月17日

平成30年度：2名、平成30年7月22日～8月8日

2 インドネシア・パプア州との事業

事業名：パプア州における大豆栽培技術向上支援事業

実施年度：平成28年度～30年度（3か年）

実施機関：山形県農業総合研究センター

事業内容：パプア州における大豆の生産安定・増産を図るため、栽培技術の習得・普及や、同州の気候に適した品種を選定する技術習得などの支援を行う。

【研修員受入】

パプア州食用作物園芸局の職員を受け入れ、山形県農業総合研究センターにおいて研修を実施。

平成29年度：3名、8月28日～10月8日

平成30年度：3名、8月27日～10月7日

【専門家派遣（NPO法人山形パプア友好協会）】

平成29年度：2名、1回目：11月6日～11月21日、2回目：1月30日～2月13日、パプア州食用作物園芸局ほか

平成30年度：4名（山形パプア友好協会2名、県職員2名）平成30年11月3日～11月19日、パプア州立第4実業高校ほか

令和4年6月からは「パプア州農業普及員の普及能力向上と住民組織化による農業技術改善プロジェクトー山形パプア明るい農村プロジェクトー」（県が事業提案し、実施団体はNPO法人山形パプア友好協会、令和4年度～令和6年度）を実施中。

2-4 学術研究・教育分野での交流

1 大学や高等学校等における海外との提携

本県では、山形大学や東北芸術工科大学、東北公益文科大学をはじめ、高等専門学校や高等学校などが海外の大学や教育機関と提携し、教員や学生の交流などを行っています。

表2-4-1 大学や高等学校等の海外における提携先

令和5年1月末現在

教育機関	No	提携先・交流先	提携等年月日
山形大学	1	吉林大学	中国
	2	テキサス大学アーリントン校	米国
	3	タルカ大学	チリ
	4	ブリヤート国立大学	ロシア
	5	哈爾濱医科大学	中国
	6	河北医科大学	中国
	7	仁済大学校	韓国
	8	華北理工大学	中国
	9	ラトビア大学	ラトビア
	10	タリン大学	エストニア
	11	大邱大学校	韓国
	12	銘傳大学	台湾
	13	中山大学	台湾
	14	ベトナム国家農業大学	ベトナム
	15	ブルネイダルサラーム大学	ブルネイ
	16	ヨーロッパ原子核研究機構	スイス
	17	ハノイ国家大学自然科学大学	ベトナム
	18	コンケン大学	タイ
	19	オクラホマ大学	米国
	20	北京林業大学	中国
	21	トーマスバタ大学	チェコ
	22	ライデン大学	オランダ
	23	青島農業大学	中国
	24	マンチェスター大学人文科学学部	イギリス
	25	サンアンドレス大学	ボリビア
	26	全南大学校	韓国
	27	福建師範大学	中国
	28	マレーシア工科大学	マレーシア
	29	タイ国科学技術開発庁	タイ
	30	モンクット王ラカバン工科大学	タイ
	31	ジョモケニヤッタ農工大学	ケニア
	32	大連理工大学	中国
	33	河南師範大学	中国
	34	延辺大学	中国
	35	モンゴル生命科学大学	モンゴル
	36	ラジャマンガラ工科大学タニャブリ校	タイ
	37	マラヤ大学	マレーシア
	38	カントー大学	ベトナム
	39	スラナリー工科大学	タイ
	40	M. Kアモースフ記念北東連邦大学	ロシア
	41	ヴィリニユス大学	リトアニア
	42	ラ・モリーナ国立農業大学	ペルー
	43	カトリカ大学	ペルー
	44	チェンマイ大学	タイ
	45	済州大学	韓国

教育機関	No	提携先・交流先	提携等年月日
山形大学	46	ガジヤマダ大学	インドネシア
	47	サラマンカ大学	スペイン
	48	台湾師範大学	台湾
	49	サン・マルコス国立大学	ペルー
	50	ペルー国立工科大学	ペルー
	51	コムサツ情報科学大学	パキスタン
	52	モントリオール大学	カナダ
	53	アンジェ大学	フランス
	54	文藻外語大学	台湾
	55	黒竜江八一農墾大学	中国
	56	上海工程技術大学	中国
	57	ライブニツ・ハノーヴァー大学	ドイツ
	58	ヨーク・セントジョン大学	イギリス
	59	アルケマ社	フランス
	60	ロシア=アルメニア(スラヴ)大学	アルメニア共和国
	61	アボメカラビ大学	ベナン共和国
	62	フエ大学	ベトナム
	63	ペルー共和国文化省	ペルー
	64	新モンゴル学園	モンゴル
	65	モンゴル人文大学	モンゴル
	66	東北電力大学	中国
	67	輔仁大学	台湾
	68	サン・カルロス大学	フィリピン
	69	リエイダ大学	スペイン
	70	世宗大学	韓国
	71	泰日工業大学	タイ
	72	モハメディアン大学ジョグジャカルタ校	インドネシア
	73	パルマ大学	イタリア
	74	プリンスオブソンクラ大学	タイ
	75	国立中興大学	台湾
	76	ハワイ大学コミュニティカレッジ	アメリカ
	77	ハーグ応用科学大学	オランダ
	78	山西師範大学	中国
	79	バジャジャラン大学	インドネシア
	80	プレスビテリアンカレッジ	アメリカ
	81	シリマン大学	フィリピン
82	エンデラン大学	フィリピン	
83	国立台湾科技大学	台湾	
84	広西師範大学	中国	
85	トリノ大学	イタリア	
86	漢陽大学校ERICAキャンパス	韓国	
人文社会科学部	87	ブリーアト国立大学東洋学部	ロシア
	88	広西師範大学	中国
	89	全南大学人文大学	韓国
	90	哈爾濱工業大学外国語学院	中国
	91	デュースブルクエッセン大学東アジア研究院	ドイツ
	92	東北電力大学	中国
	93	カチン大学	ミャンマー
	94	サマール国立大学	フィリピン
	95	グアナファト大学	メキシコ
	96	台湾成功大学	台湾
	97	メーファールアン大学	タイ
	98	サハリン国立大学	ロシア
	99	パリ・ナンテール大学	フランス
			平成25年 2月 6日
			平成25年 3月 1日
			平成25年 4月18日
			平成25年5月27日
			平成25年5月28日
			平成25年 7月10日
			平成25年 10月16日
			平成25年 11月18日
			平成26年 1月 8日
			平成26年3月31日
			平成26年5月4日
			平成26年5月23日
			平成26年7月29日
			平成26年10月17日
			平成26年11月11日
			平成27年 8月24日
			平成27年 4月17日
			平成27年4月23日
			平成27年7月27日
			平成27年8月10日
			平成27年9月11日
			平成27年10月1日
			平成27年10月3日
			平成27年11月5日
			平成28年4月1日
			平成28年10月17日
			平成29年4月6日
			平成29年4月11日
			平成29年4月18日
			平成29年9月19日
			平成29年10月27日
			平成29年11月8日
			平成29年12月1日
			平成30年1月16日
			平成30年1月26日
			平成30年2月7日
			平成30年2月15日
			平成30年2月25日
			平成30年5月14日
			平成30年8月6日
			令和3年10月14日
			平成15年 3月10日
			平成16年 5月17日
			平成18年 1月20日
			平成19年 3月28日
			平成22年12月10日
			平成29年9月10日
			平成29年11月8日
			平成30年7月2日
			平成30年11月22日
			平成31年1月15日
			令和元年5月8日
			令和元年7月16日
			令和元年7月3日

教育機関	No	提携先・交流先	提携等年月日
地域教育文化学部	100	ブカレスト大学	ルーマニア
	101	ラトビア大学現代言語学部	ラトビア
	102	北華大学	中国
	103	銘傳大学応用語文学院	台湾
	104	仁済大学校人文社会科学大学	韓国
	105	台湾師範大学スポーツとレジャー学院	台湾
	106	東北電力大学	中国
	107	文藻外語大学	台湾
	108	北京師範大学教育学部	中国
理学部	109	大邱大学校自然科学大学	韓国
	110	釜山大学校自然科学大学	韓国
	111	福建師範大学	中国
	112	北京林業大学理学院	中国
	113	ハワイ大学マノア校海洋・地球科学・テクノロジー学部	米国
	114	ガジャマダ大学生物学部	インドネシア
医学部	115	哈爾浜医科大学	中国
	116	華北理工大学臨床医学院	中国
	117	上海交通大学医学院	中国
	118	浙江大学医学院	中国
	119	寧夏医科大学	中国
	120	河北医科大学	中国
	121	ウプサラ大学医学部	スウェーデン
	122	復旦大学公共衛生学院	中国
	123	山形ダッカ友好病院	バングラデシュ
	124	マヒドン大学医学部ラマティボディ病院	タイ
	125	モデナ・レッジョ・エミリア大学	イタリア
	126	延世大学医学部	韓国
	127	ソウル国立病院	韓国
	工学部	128	吉林化工学院
129		テキサス州立大学サンマルコス校	米国
130		河南大学化学化工学院	中国
131		テキサス大学ダラス校工学部	米国
132		中国科学院化学研究所	中国
133		東華大学材料科学工程学院	中国
134		河南理工大学	中国
135		韓国海洋大学・大理大学	韓国・中国
136		台湾大学工学院・電気情報学院	台湾
137		フランス原子力・代替エネルギー庁(CEA)	フランス
138		フラウンホーファーFEP	ドイツ
139		国立中央大学工学院	台湾
140		サイモンフレーザー大学応用科学部	カナダ
141		ブリティッシュコロンビア工科大学	カナダ
142		長春理工大学	中国
143		シラパコーン大学工学・産業技術学部	タイ
144		コーチン科学技術大学工学部	インド
145		国立台北科技大学工学院	台湾
146		長庚大学工学部	台湾
147		南京大学化学化工学院	中国
148		パトムワン工科大学工学部	タイ
149		ラジシャヒ大学工学部	バングラデシュ
150		バーモンド大学及び州立農業カレッジ	アメリカ
151		カセサート大学理学部	タイ
152		トゥルクアブドゥルラーマン大学応用学部	マレーシア

教育機関		No	提携先・交流先	提携等年月日	
山形大学	農学部	153	ガジヤマダ大学農学部	インドネシア	平成14年 3月11日
		154	ガジヤマダ大学林学部	インドネシア	平成14年12月19日
		155	シエレ・バングラ農業大学	バングラデシュ	平成17年 8月31日
		156	ラオス国立大学工学部	ラオス	平成18年 3月 9日
		157	キング・モンクット工科大学トンブリ校	タイ	平成20年 6月24日
		158	ビサヤ大学	フィリピン	平成20年 7月24日
		159	インドネシア林業省森林研究開発庁保全修復センター	インドネシア	平成20年 7月25日
		160	ムラワルマン大学林学部	インドネシア	平成20年11月25日
		161	ガジヤマダ大学農業工学部	インドネシア	平成22年 7月 7日
		162	カセサート大学農学部カンペンセン校	タイ	平成26年4月9日
		163	カセサート大学理学部	タイ	平成26年4月17日
		164	ジェンデラルアチマドヤニ大学数学・自然科学部	インドネシア	平成26年9月5日
		165	ガジヤマダ大学数学・自然科学部	インドネシア	平成26年11月11日
		166	東南アジア熱帯生物学センター	インドネシア	平成27年3月16日
		167	ボゴール農科大学農業工学部	インドネシア	平成27年5月20日
		168	インドネシアイスラム大学	インドネシア	令和元年11月28日
		169	ヤウンデ第一大学理学部	カメルーン	令和2年1月4日
		170	ベトナム社会主義共和国国立土木大環境工学部	ベトナム	令和2年1月15日
		171	コブレンツ応用科学大学 建築芸術材料学部	ドイツ	令和3年1年31日
		172	ルール大学ポーfum地球科学部	ドイツ	令和3年3月4日
173	駐日ベナン共和国大使館	ベナン	令和3年7月30日		
	附属博物館	174	ボローニャ大学附属博物館	イタリア	平成31年2月5日
東北芸術工科大学		175	スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学	スウェーデン	平成10年12月15日
		176	韓国伝統文化学校	韓国	平成20年 1月16日
東北公益文科大学		177	東北林業大学	中国	平成22年 5月26日
		178	クレイトン大学	米国	平成27年4月24日
		179	世新大学	台湾	平成28年7月26日
		180	オハイオウェズリアン大学	米国	平成29年4月19日
		181	セントラルコネチカット州立大学	米国	平成30年6月20日
		182	イルクーツク総合大学	ロシア	平成30年8月13日
		183	吉林財経大学	中国	令和2年1月8日
		184	コーク大学	アイルランド	令和2年2月26日
		185	山東師範大学	中国	令和2年3月24日
		186	リジャイナ大学	カナダ	令和4年1月28日
東北文教大学		187	ソウル女子大校	韓国	平成25年9月23日
		188	銘傳大学	台湾	平成28年9月7日
		189	徳明財経科技大学	台湾	平成28年9月7日
		190	景文科技大学	台湾	平成28年9月7日
		191	サイバー韓国外国語大校	韓国	平成29年12月29日
		192	国立台湾師範大学国語教学センター	台湾	平成30年1月17日
		193	洪州高等学校	韓国	平成30年2月27日
		194	ハワイ州立大学リーワードコミュニティカレッジ	米国	平成30年6月5日
		195	伊春職業学院	中国	平成30年8月25日
		196	正義女子高等学校	韓国	平成30年11月19日
		197	ハワイ州立大学コミュニティカレッジズ	米国	令和元年8月20日
県立保健医療大学	看護学科、理学療法学科	198	コロラド大学デンバー校	米国	平成13年 1月29日
	作業療法学科	199	コロラド州立大学	米国	平成14年 3月25日
県立米沢女子短大		200	アラバホ・コミュニティ・カレッジ	米国	平成 2年 1月25日
県立農林大学校		201	モーガン・コミュニティ・カレッジ	米国	平成 4年 7月30日
		202	コロラド州立大学	米国	平成29年 9月7日
県立産業技術短期大学校		203	プエブロ・コミュニティ・カレッジ	米国	平成 9年10月21日

教育機関	No	提携先・交流先	提携等年月日	
国立鶴岡工業高等専門学校	204	リールA技術短期大学	フランス	
	205	レッドロック・コミュニティ・カレッジ	米国	
	206	キングモンクット工科大学ラカバン校	タイ	
	207	シンガポールポリテクニク	シンガポール	
	208	リパブリックポリテクニク	シンガポール	
	209	ニーアンポリテクニク	シンガポール	
	210	ナンヤンポリテクニク	シンガポール	
	211	テマセクポリテクニク	シンガポール	
	212	トゥルク応用科学大学	フィンランド	
	213	メトロポリア応用科学大学	フィンランド	
	214	アルトワ大学	フランス	
	215	ガジャ・マダ大学	インドネシア	
	216	泰日工業大学	タイ	
	217	グアナファト大学	メキシコ	
	218	電力大学	ベトナム	
	219	ハノイ産業大学	ベトナム	
	220	マヌカウ工科大学	ニュージーランド	
	221	国立聯合大学	台湾	
	222	長庚大学	台湾	
	223	ニューカッスル大学	オーストラリア	
	224	ラジャマンガラ工科大学ランナー校	タイ	
	225	モンゴル高専連盟	モンゴル	
	山形デザイン専門学校	226	コロラド州立メサ大学	米国
	専門学校 山形V.カレッジ	227	素晴らしい国際言語学院	ネパール
		228	日本語アカデミー	ネパール
229		A One International Education consultancy Pvt. Ltd	ネパール	
県立高畠高等学校	230	シングルトンハイスクール	オーストラリア	
県立天童高等学校	231	佛谷高等学校	韓国	
県立鶴岡中央高等学校	232	サムナーハイスクール	米国	
県立庄内農業高等学校	233	国立苗栗高級農工職業学校	台湾	
県立米沢興譲館高等学校	234	国立師範大学附属高級中学	台湾	
県立置賜農業高等学校	235	国立台南大学附属高級中学	台湾	
県立酒田東高等学校	236	国立武陵高級中学	台湾	
県立村山産業高等学校	237	新モンゴル学園	モンゴル	
県立山形工業高等学校	238	台湾国立新竹高級工業職業学校	台湾	
山形市立商業高等学校	239	吉林第二高級中学	中国	
山形城北高等学校	240	韓国正義女子高等学校	韓国	
山形学院高等学校	241	京一観光経営高等学校	韓国	
九里学園高等学校	242	ラッドフォード・カレッジ	オーストラリア	
	243	セントジョーンズベリーアカデミー	米国	
	244	セントポールズアングリカングラマースクール	オーストラリア	
	245	セントラルコースト・グラマースクール	オーストラリア	
	246	ザ・リベリーナ・アングリカン・カレッジ	オーストラリア	
	247	国立埔里高級工業職業学校	台湾	
米沢中央高等学校	248	ワイアケアハイスクール	米国	
	249	パールシティハイスクール	米国	
新庄東高等学校	250	ダウンズヒル・グラマースクール	オーストラリア	
	251	マコウラカレッジ	ニュージーランド	
	252	国立員林高級農工職業学校	台湾	
基督教独立学園高等学校	253	ブルム農業高等技術学校	韓国	
金沢幼稚園（新庄市）	254	フロント・レンジ・コミュニティカレッジ 附属幼稚園	米国	
酒田南高等学校	255	サントペテルブルク第583番学校	ロシア	
山形県高等学校校長会	256	台湾7大学（国立宜蘭大、中華大、開南大、樹徳科技大、元智大、中国文化大、長栄大）	台湾	

2 大学等における外国人留学生の受入れ

令和4年10月1日現在で、321人の外国人留学生が、県内の大学や高等専門学校などで学んでいます。出身国別では、中国、韓国、マレーシア、インドネシアなど、アジア各国からの留学生が大勢を占め、大学別では、山形大学が8割以上を占めています。

令和4年度の各大学学生海外派遣は、山形大学にてラトビアへ1名、フィジーへ1名の実績がありました。

表2-4-2 外国人留学生の現況

令和4年10月1日現在（単位：人）

	山形大学	東北芸術工科大学	東北公益文科大学	東北文教大学	東北文教大学短期大学部	鶴岡工業高等専門学校	計
合計	281	24	2	6	1	7	321
中国	141	6	2				149
韓国	12	17		2	1		32
台湾	13	1		4			18
インドネシア	24					1	25
マレーシア	19						19
バングラデシュ	4						4
ドイツ	6						6
タイ	4						4
ベトナム	5						5
ミャンマー	1						1
ルワンダ	2						2
モンゴル	4					4	8
ロシア	4						4
オランダ	1						1
イギリス	5						5
ケニア	2						2
ボリビア	1						1
ラトビア	1						1
ペルー	5						5
ベナン	1						1
シンガポール	1						1
パキスタン	1						1
アメリカ	1						1
インド	2						2
ブルネイ	4						4
チリ	2						2
エチオピア	2						2
モザンビーク	2						2
ネパール	1						1
フィリピン	1						1
グアマテラ	1						1
イタリア	1						1
スペイン	1						1
ナイジェリア	3						3
ギニア	1						1
ザンビア	1						1
セネガル	1						1
フィンランド						1	1

表2-4-3 私費留学生に対する奨学助成等

令和4年10月1日現在

奨学金の名称	月額	年額	受給者数
	円	円	人
文部科学省外国人留学生学習奨励費 (6か月)	48,000 48,000	576,000 288,000	8 山形大学7、東北芸術工科大学1 1 山形大学
ロータリー米山記念奨学金 (学部学生) (大学院生)	70,000 100,000 140,000	840,000 1,200,000 1,680,000	1 東北文教大学 7 山形大学5、東北芸術工科大学2 4 山形大学
日揮・実吉奨学金		300,000	1 山形大学
一般社団法人米沢工業会奨学支援金 (学部学生) (大学院博士前期課程) (大学院博士後期課程)		65,000 70,000 80,000	1 山形大学 1 山形大学 2 山形大学
山形県私費外国人留学生奨学金 (9か月) (6か月)	20,000 20,000 20,000	240,000 180,000 120,000	21 山形大学18、東北公益文科大学2、 専門学校 山形V.カレッジ1 2 山形大学 5 山形大学
JEES留学生奨学金(修学)	40,000	480,000	2 山形大学1、東北芸術工科大学1
JEES留学生奨学金(コロナ対応特別枠)		100,000	3 山形大学1、東北芸術工科大学2
一般社団法人米沢工業会とうほくMARAIプログラム履修生奨学金 (6か月)	35,000 35,000	420,000 210,000	6 山形大学 2 山形大学
MHIベトナム奨学金	130,000	1,560,000	2 山形大学(左記のほか、学費支給)
公益財団法人平和中島財団	100,000	1,200,000	1 山形大学
(公財)朝鮮奨学会奨学金	25,000	300,000	2 山形大学1、東北芸術工科大学1
公益財団法人INPEX教育交流財団	160,000	1,920,000	1 山形大学(左記のほか、学費支給)
公益財団法人フジシール財団	100,000	1,200,000	1 山形大学

私費留学生の授業料免除(令和4年度)

(単位:人)

大 学 名	前 期		
	全額免除者	半額免除者	一部免除者
山形大学	110	7	
東北文教大学		1	
東北文教大学短期大学部		1	
東北公益文科大学	1		
計	111	9	0

2-5 文化交流、青少年交流等

1 文化交流

本県では、姉妹友好県州や市町村の姉妹都市交流等を基盤として、民間団体等草の根レベルでの文化交流が盛んになってきています。(公財)山形県国際交流協会では、このような草の根文化交流等に対して助成事業を行っており、県民の国際文化交流活動の推進を図っています。

令和4年度に助成を行った主な文化事業は以下のとおりです。

(1) ネイティブから学ぶスペイン語の世界

(主催：山形スペイン友好協会)

山形県在住のスペイン語ネイティブのボリビア人を講師に招いて、スペイン語とボリビア文化の講座を全9回(特別セミナー含む)開催した。講座に特別セミナーとして、特設会場を設けて、Zoomを使いライブ映像でスペインのグラナダをスペイン人現地ガイドが案内し、通訳を介して質疑応答で交流することを盛り込んだ。参加者からは国際的視野を広める機会を得た等、好評な感想が多数寄せられた。

(2) 山形南ロータリークラブ創立50周年記念講演

(主催：山形南ロータリークラブ)

創立50周年記念式典事業の一環の記念講演を「COOL JAPAN 山形を語る」と題し、山形県内に在住の外国人を招き会員とのパネルディスカッションを開催。同クラブにて10年前から開催してきた企画で50周年の節目に拡大版を開催し、県内ロータリアンへ外国人との交流経緯を紹介した。

(3) 多文化共生推進事業

(主催：人財育成推進・確保対策協議会)

最上地域では、外国人労働者向けの日本語学習支援の機会が不足しているため「日本語学習支援事業」として日本語教室を行った。初級と中級とに分け、外国人労働者のレベルにあった学習を行ったことにより、日本語能力の向上及び企業でのコミュニケーション能力の向上につなげることができた。新庄市民プラザと連携し、日本語講師の育成を図った。また、最上地域の各地を回るバスツアー事業として、魅力発信ツアーを実施し最上川舟下りやそば打ち体験、さらには地域の祭り等を紹介する施設見学等で交流を深めた。

(4) 在住外国人のヤマガタ発見・体験事業

(主催：在山形ベトナム人協会)

山形県に在住するベトナム人等の外国人(国籍問わず)に対して、日本語指導や文化交流、地域活動等を行い、山形市における国際的な活動の活性化に寄与することを目的に、日本語学習にとどまらず、多くの交流の場作りを行った。着物着付け・手芸・笹巻づくり、そば打ち・栗拾いなど日本文化に触れる体験会を多数催し、またベトナムに関するオリジナルカレンダーをベトナム人と日本人が協力して作成した。

(5) 世界の料理を楽しもう

(主催：NPO法人芸術文化振興市民ネット新庄)

最上地域在住の外国人および日本人との交流を、「食文化」を通して図ろうと企画。日本語教室の参加者や技能実習生を受入れている企業等に広く声がけを行った。参加者は外国人11名日本人9名計20名で参加国・地域は台湾、中国、韓国、フィリピン、インドネシア及び日本。国ごとのグループにわかれてもらい、日本人もその中に加わって一緒に調理を行った。調理後は、それぞれの母国料理を味わいながら親睦を深めた。また、食事後には料理に関する説明や質問、食事の感想等を話し一緒にゲームを楽しむなど盛会となった。

2 スポーツ交流

日独スポーツ少年団同時交流事業（主催：（公財）日本スポーツ協会、日本スポーツ少年団、（公財）山形県スポーツ協会、山形県スポーツ少年団）

両国スポーツ少年団の優れた団員、指導者の相互交歓により、我が国のスポーツ少年団の活動を活発化し、併せて将来における団指導者となるリーダーの研修を図ることをねらいとし、昭和49年以後、継続的に交流しています。交流の実績は次のとおりです。

平成25年度：派遣2名、受入7名（山形県スポーツ少年団 置賜地区協議会）

平成26年度：派遣4名、受入6名（山形県スポーツ少年団 村山地区協議会）

平成27年度：派遣5名、受入9名（山形県スポーツ少年団 最上地区協議会）

平成28年度：派遣4名、受入9名（山形県スポーツ少年団 村山地区協議会）

平成29年度：派遣5名、受入9名（山形県スポーツ少年団 庄内地区協議会）

平成30年度：派遣5名、受入9名（山形県スポーツ少年団 置賜地区協議会）

令和元年度：派遣0名、受入9名（山形県スポーツ少年団 村山地区協議会）

令和2年度：事業中止

令和3年度：派遣1名、受入中止

令和4年度：事業中止

3 青年交流

国では、日本と世界各国の青年の交流を通して相互理解と友好を深めるため、日本青年の派遣及び外国青年の招聘等を行っています。

本県では、内閣府青年国際交流事業について、同事業の参加者OB・OGにより構成される山形県青年国際交流機構（山形県IYEO）の協力を得ながら、外国青年の受入れを実施しています。受入れの実績は次のとおりです。

(1) 世界青年の船事業

明治百年記念事業の一つとして昭和42年度から実施されてきた青年の船事業を発展的に改組し、昭和63年度に開始され、平成30年度は明治の精神に学び、日本の強みを再認識する取組みを進める「明治150年」記念事業の一つとして実施されました。本県では、平成14年度にニュージーランドとベネズエラ、平成22年度にフィジーとメキシコ、平成23年度にエジプトとベネズエラ、平成28年度にケニアとトンガ、平成29年度にオーストラリアと南アフリカ共和国、令和元年度はニュージーランドとスリランカ民主社会主義共和国の青年を受け入れました。

(2) 東南アジア青年の船事業

日本とASEAN各国との共同声明に基づいて昭和49年度から開始され、本県では、平成9、15、16、18、21、24、26、27、30年度にASEAN各国の青年を受け入れました。

(3) 日本・中国青年親善交流事業

昭和53年の日中平和友好条約の締結を記念し、両国青年の相互理解と友好の促進を図ることを目的として昭和54年度から開始され、本県では、平成10、12、13、17年度に中国青年を受け入れました。

(4) 日本・韓国青年親善交流事業

昭和59年の日韓共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度から開始され、本県では、平成11、19年度に韓国青年を受け入れました。

(5) 青年社会活動コアリーダー育成プログラム事業

(平成28年度より地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」)

社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成14年度から開始され(高齢者関連、障害者関連、青少年関連の3分野を対象)、本県では、平成25年度に、青少年分野においてデンマーク、ニュージーランド、及びイギリスの青年を受入れました。

4 赤十字社を通じた韓国との青少年交流

日本赤十字社山形県支部と韓国の大韓赤十字社大邱(テグ)支社は、お互いの文化や習慣、歴史を学びながら相互理解を深めることなどを目的とした青少年赤十字国際交流に関する協定を平成21年5月に締結しました。

平成28年度は、8月に県内の中高生8名が大邱広域市を訪れるとともに、12月に韓国の中高生10名が来県し、赤十字活動の発表やホームステイなどの交流を図りました。

平成30年7月には、韓国の中高生10名が来県するとともに、令和元年12月には、県内の青少年赤十字メンバー7名が大邱広域市を訪れ、赤十字活動の発表やホームステイなどの交流を通して、国際理解や親善を深めました。

2-6 国際交流を担う機関や団体の活動

1 公益財団法人山形県国際交流協会

公益財団法人山形県国際交流協会は、県内の各分野における国際交流と多文化共生の社会づくりを促進するため、平成3年4月に、県、市町村などが基本財産を拠出して設立した財団法人です（平成24年4月に公益財団法人に移行）。総務省認定の「地域国際化協会」（地域の国際交流を推進するにふさわしい中核的民間組織）として、県民の国際理解や多文化共生への理解を深めるための講座、イベント等の実施や、在住外国人のための日本語教室の運営など幅広い分野の事業を行っています。同時に、「山形県国際交流センター」の指定管理者として、在住外国人や外国人の雇用などについて企業向けの相談窓口を開設するとともに、交流サロンや研修室などの施設を活用して、一般県民に対する国際交流関係の情報提供や在住外国人との交流の機会を提供しています。

表 2-6-1 公益財団法人山形県国際交流協会の主な事業

事業名	内容
情報集積活用事業	・ウェブサイトやFacebook、Instagramによる幅広い情報提供
広報啓発事業	・機関誌「AIRY」、外国語情報紙「Face to Face」の発行
国際交流推進事業	・地球市民学習事業 「とびいりワールド茶館 ^{カフェ} 」「EIGOで話そう」「CIR多文化理解講座」「English Game Room」「多文化理解講座『世界のぞけば...』」の開催 ・国際理解推進事業 「体験！実践！国際理解実践フォーラム」の開催
民間国際交流活動推進支援事業	・県内民間団体との連携強化、交流促進 ・国際交流サポーターの登録、紹介及び研修会開催 ・民間国際交流活動推進助成事業 ・共催、後援事業の実施
多文化共生社会づくり（在住外国人支援）事業	・日本語教室の開催 ・日本語サポーターの紹介及び活動支援 ・外国人相談研修事業 ・災害時外国人支援体制整備事業 ・「やさしい日本語」普及研修事業
在外県人会等支援事業	・在外県人会支援事業
山形県国際交流センター管理業務事業	・山形県国際交流センターの管理運営
外国人総合相談ワンストップセンター	・外国人相談窓口 ・企業向け外国人相談窓口

2 地域における国際交流サポーター、ボランティア

地域における在住外国人との協働を拡大するため、県内では国際交流サポーター・ボランティアが活躍しています。山形県国際交流協会（山形市国際交流協会と名簿を共有）、米沢市国際交流協会、出羽庄内国際交流財団では、語学（通訳、翻訳）、日本語（外国人への日本語学習支援）、ホストファミリー（ホームステイの受入れ）、国際理解、イベント協力（国際交流イベント）の各分野のサポーター・ボランティアの登録を行っています。

表 2-6-2 各サポーター、ボランティア登録状況

【凡例】
県：公益財団法人山形県国際交流協会
米沢：米沢市国際交流協会
庄内：公益財団法人出羽庄内国際交流財団
サポーター：公益財団法人山形県国際交流協会への登録者
ボランティア：米沢市国際交流協会、公益財団法人出羽庄内国際交流財団への登録者

◇各サポーター、ボランティア登録者総合計人数：892名

<内訳>

令和5年1月末現在

◇ 語学サポーター・ボランティア（合計 304名）

（単位：人）

村山地区				最上地区			置賜地区				庄内地区			その他			
市町村	県	米沢	庄内	市町村	県	庄内	市町村	県	米沢	庄内	市町村	県	庄内	都道府県	県	米沢	庄内
山形市	90	3	2	新庄市	2		米沢市	3	25	1	鶴岡市	1	74	宮城県	4		
寒河江市	9			金山町			長井市	3			酒田市	2	12	秋田県	1		1
上山市	6			最上町			南陽市	2	1		三川町		9	埼玉県		1	
村山市	4			舟形町		1	高島町	1	3		庄内町		4	千葉県			1
天童市	14			真室川町	1		川西町	1			遊佐町		1	東京都			1
東根市	6			大蔵村			小国町	2	1								
尾花沢市				鮭川村			白鷹町										
山辺町				戸沢村	1		飯豊町		1								
中山町	1																
河北町	4																
西川町																	
朝日町	2																
大江町	1																
大石田町		1															
小計	137	4	2	小計	4	1	小計	12	31	1	小計	3	100	小計	5	2	2

<言語別延べ人数>

（単位：人）

言語	県	米沢	庄内	合計
英語	100	16	44	160
スペイン語	9	1	2	12
ドイツ語	2	2		4
中国語	29	9	24	62
台湾語	6	5	2	13
韓国語	19	4	19	42
フランス語	6		1	7
ロシア語	4			4
ミャンマー語			1	1
タガログ語	5			5
ベトナム語		1	6	7
イタリア語	1			1
ギニア語	1			1
広東語	2			2
タイ語	5	4	1	10
ネパール語	1		1	2
ヒンディー語	1			1
ルーマニア語	1			1
モンゴル語	1	1	1	3
インドネシア語	1		1	2
ポルトガル語			2	2
トルコ語			1	1
合計	194	43	106	343

（注）一人が複数の言語に登録している場合があるため、語学サポーター、ボランティアの合計と一致しない

◇ 日本語サポーター・ボランティア（合計 212 名）

（単位：人）

村山地区			最上地区		置賜地区			庄内地区		その他	
市町村	県	庄内	市町村	県	市町村	県	米沢	県	庄内	都道府県	県
山形市	71	2	新庄市	1	米沢市	11	16	4	37	宮城県	1
寒河江市	10		金山町		長井市	8	1	4	1	秋田県	1
上山市	2		最上町		南陽市						
村山市	6		舟形町		高畠町	1	3		2		
天童市	10		真室川町		川西町		2		1		
東根市	5		大蔵村		小国町	1					
尾花沢市	1		鮭川村		白鷹町	1					
山辺町			戸沢村	1	飯豊町	1					
中山町											
河北町	3										
西川町											
朝日町	2										
大江町	2										
大石田町											
小計	112	2	小計	2	小計	23	22	8	41		2

◇ ホストファミリーサポーター・ボランティア（合計 117 名）

（単位：人）

村山地区		最上地区		置賜地区			庄内地区			
市町村	県	市町村	県	市町村	県	米沢	庄内	市町村	県	庄内
山形市	19	新庄市		米沢市	1	5		鶴岡市	1	58
寒河江市	5	金山町		長井市				酒田市	1	2
上山市	3	最上町		南陽市	1			三川町		3
村山市	1	舟形町		高畠町	1			庄内町		3
天童市	4	真室川町	1	川西町		1		遊佐町		
東根市	3	大蔵村		小国町						
尾花沢市		鮭川村		白鷹町						
山辺町		戸沢村		飯豊町			1			
中山町										
河北町	1									
西川町										
朝日町	2									
大江町										
大石田町										
小計	38	小計	1	小計	3	6	1	小計	2	66

◇ 国際理解サポーター・ボランティア（合計 66 名）

（単位：人）

村山地区		置賜地区			庄内地区		その他	
市町村	県	市町村	県	米沢	市町村	県	都道府県	県
山形市	30	米沢市	1	7	鶴岡市		宮城県	2
寒河江市	4	長井市	2		酒田市	1	秋田県	1
上山市	2	南陽市			三川町		東京都	
村山市	2	高畠町			庄内町			
天童市	3	川西町	1		遊佐町			
東根市	4	小国町	1					
尾花沢市		白鷹町						
山辺町	1	飯豊町						
中山町								
河北町	1							
西川町								
朝日町	2							
大江町	1							
大石田町								
小計	50	小計	5	7	小計	1	小計	3

<出身国・地域別人数> (単位：人)

出身国・地域	県	米沢
韓国	5	1
中国	4	2
台湾	3	
イラン		
ドイツ		
ロシア		
マレーシア	1	
アメリカ	1	
ベナン	1	
日本	38	4
カナダ	1	
ギニア	1	
タイ	2	
フランス	1	
フィリピン	1	
合計	59	7

◇ イベント協力サポーター・ボランティア (合計 218 名) (単位：人)

村山地区			置賜地区			庄内地区			その他	
市町村	県	米沢	市町村	県	米沢	市町村	県	庄内	市町村	県
山形市	57	1	米沢市	3	42	鶴岡市	1	42	宮城県	4
寒河江市	8		長井市	5	1	酒田市	1	3	秋田県	1
上山市	4	1	南陽市	3	1	三川町		4		
村山市	4		高畠町		2	庄内町		3		
天童市	9		川西町	1	2	遊佐町				
東根市	4		小国町	1	1					
尾花沢市	1		白鷹町							
山辺町	1		飯豊町		1					
中山町	1									
河北町	2									
西川町										
朝日町	2									
大江町	1									
大石田町										
小計	94	2	小計	13	50	小計	2	52	小計	5

3 地域における国際交流団体等

本県では、表2-6-3に記載した122の国際交流団体等が、それぞれの特徴を活かしながら、姉妹・友好交流や国際交流、国際協力、国際理解の促進、在住外国人の方々への支援、相談への対応、日本語学習支援、文化交流、料理教室など幅広い分野で活動しています。

表2-6-3 県内の国際交流団体一覧

令和5年1月現在

No	団体名	所在地	電話番号
1	国際日本文化研究会（IAJS）	〒990-0002 山形市高原町971-37 大場様方	023-632-3727
2	認定NPO法人 IVY（アイビー）	〒990-2432 山形市荒楯町1-17-40	023-634-9830
3	Cherish Club Yamagata ～世界の子どもの笑顔のために～	〒990-8580 山形市城南町1-1-1 山形市国際交流センター内	(非公開)
4	山形インドネシア協会	(非公開)	(非公開)
5	山形キッツビューエルクラブ	〒990-0042 山形市七日町2-1-3 公益社団法人山形青年会議所内	023-632-8665
6	やまがたグローバル教育研究会	〒990-2317 山形市みはらしの丘1-13-10 奥山様方	(非公開)
7	山形経済同友会	〒990-8511 山形市城西町5-4-1 山形テレビ内	023-645-1211
8	山形県EU協会	〒990-0039 山形市香澄町3-2-1 山交ビル8階 山形県経営者協会内	023-622-3875
9	一般社団法人 山形県国際経済振興機構	〒990-0042 山形市七日町3-5-20 富士火災山形ビル5階	023-687-1127
10	山形県コロラド友好協会	〒990-0047 山形市旅籠町2-5-12 山形放送報道制作局制作部	023-641-0025
11	一般財団法人 山形コンベンションビューロー	〒990-0076 山形市平久保100番地	023-635-3000
12	山形子ども日本語サポートネット	〒990-8580 山形市城南町1-1-1 山形市国際交流センター内	090-6229-9139
13	特定非営利活動法人 山形県青年海外協力協会	(非公開)	(非公開)
14	山形県日華親善協会	〒990-8501 山形市七日町3-1-9 山形商工会議所内	023-622-4666
15	山形県日本中国友好協会 (略称：山形県日中友好協会)	〒990-0047 山形市旅籠町2-5-12 山形メディアタワー内	023-631-1234
16	山形県国際交流人材育成推進協議会	〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学エンrollment・マネジメント部国際交流課内	023-628-4926
17	山形市国際交流協会	〒990-8580 山形市城南町1-1-1 山形市国際交流センター内	023-647-2277
18	山形市日本中国友好協会 (略称：山形市日中友好協会)	〒990-0047 山形市旅籠町2-5-12 山形メディアタワー内	023-631-1234
19	山形市女性団体連絡協議会	〒990-8540 山形市旅籠町2-3-25 山形市男女共同参画センター	023-645-8077
20	山形市ボルダー友好協会	〒990-0861 山形市江俣4丁目15-10 井上様方	023-681-0545
21	山形商工会議所	〒990-8501 山形市七日町3-1-9	023-622-4666
22	山形スワンヒルクラブ	〒990-0063 山形市山家町2-4-43	023-631-6255
23	公益社団法人 山形青年会議所	〒990-0042 山形市七日町2-1-3 プラザビル七日町3F	023-632-8665
24	山形日唄協会	〒990-0047 山形市旅籠町1-3-12 大久保様方	023-622-2193
25	特定非営利活動法人 山形パプア友好協会	〒990-2305 山形市蔵王半郷441番地5	090-5598-6758
26	山形ボランティア日本語協会（JAY）	〒990-0835 山形市やよい2-3-40-8 菅野様方	023-643-0516

No	団体名	所在地	電話番号
27	山形マレーシア協会	〒990-0025 山形市あこや町1-3-18 榊スズキ通商内	023-679-4181
28	特定非営利活動法人 ヤマガタ ヤポニカ	〒990-2231 山形市大森568-12 横沢様方	090-2984-1904
29	山形英国友好協会	(非公開)	(非公開)
30	山形日本香港協会	〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2 ユニテハウス蔵王ジョーニダ・リゾート内	023-665-1310
31	ライオンズクラブ国際協会 332-E地区	〒990-0067 山形市花楸1-19-20 鈴川セントラルビル2F	023-626-4431
32	山形スペイン友好協会	〒990-0042 山形市七日町1-4-10	023-631-6305
33	山形ウランウデ友好協会	〒990-0021 山形市小白川町5-13-8-1 新関様方	023-632-2405
34	山形タンザニア友好協会	〒990-0075 山形市落合町1083-12 谷口義洋様方	023-623-2009
35	ザ・フレンドシップ・フォース・オブ山形	〒990-0831 山形市西田3-9-6 武田義郎様方	023-644-9707
36	山形県青年国際交流機構	〒990-0047 山形市旅籠町1-8-28	023-623-1372
37	山形県タイ友好協会	〒990-0043 山形市本町1-4-21 (事務局：荘内銀行地方創生室)	023-626-9050
38	在山形ベトナム人協会 (TVA山形)	(非公開)	090-7520-3247
39	特定非営利活動法人 アロアシャ・プロジェクト	〒990-0031 山形市十日町3丁目9-36 (株) HFP内	090-3649-6127
40	山形県日韓親善協会	〒990-0038 山形市幸町7-4-1	023-641-8233
41	JICA山形デスク (独立行政法人国際協力機構東北センター)	〒990-8580 山形市城南町1-1-1 公益財団法人山形県国際交流協会内	023-646-6267
42	公益財団法人 山形県国際交流協会	〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル2F	023-647-2560
43	寒河江市国際交流協会	〒991-8601 寒河江市中央1丁目9-45 寒河江市企画創成課	0237-85-1413
44	寒河江西村山日中友好協会	〒991-0004 寒河江市西根北町1-12 山形新聞寒河江支社内	0237-86-4241
45	山形エスペラントクラブ	〒991-0065 寒河江市大字中郷1450-1 国井クリニック内	0237-84-4103
46	アマニ・ヤ・アフリカ山形	〒990-0505 寒河江市白岩18	(非公開)
47	上山市日中友好協会	〒999-3192 上山市河崎1-1-10 上山市役所	023-672-1111
48	上山・ドナウエッシンゲン日独友好協会	〒999-3135 上山市南町8-21 上山市商工会内	023-672-2057
49	村山市国際クラブ	〒995-0021 村山市榎岡樋15-8 斉藤様方	0237-53-2805
50	村山市日中友好協会	〒995-0038 村山市駅西7-24 山形新聞村山支社内	0237-55-2532
51	村山青少年育成国際交流委員会	〒995-0004 村山市金谷2-1 松岡様方	0237-52-5466
52	村山日本語教室	〒995-0208 村山市大字富並2989 黒沼様方	0237-57-2159
53	天童市国際交流協会	〒994-0013 天童市老野森1-1-1 天童市総務部市長公室まちづくり推進係	023-654-1111 (内線324)
54	国際ソロプチミスト天童	〒994-0025 天童市鎌田本町1-1-30 (株) 滝の湯ホテル内	023-654-2211
55	国際ロータリー 第2800地区	〒994-0034 天童市桜町2-20 国際ロータリー第2800地区 地区事務局	023-687-0208

No	団体名	所在地	電話番号
56	東根市さくらんぼ国際交流協会	〒999-3705 東根市宮崎1-3-30 高橋様方	0237-41-2369
57	東根市国際化推進協議会	〒999-3795 東根市中央1-1-1 東根市役所交流推進課内	0237-42-1111 (内線3315)
58	特定非営利活動法人 手をつなぐメキシコと日本	〒999-3783 東根市本丸南1-6-11	(非公開)
59	尾花沢市国際交流協会	〒999-4292 尾花沢市若葉町1-1-3 尾花沢市役所総合政策課内	0237-22-1111
60	河北町国際交流協会	〒999-3511 西村山郡河北町谷地戊81番地 河北町政策推進課政策推進係	0237-73-5165
61	西川町国際交流協会「Cheer」	〒990-0742 西村山郡西川町大字水沢500	080-6038-3387
62	おおえ国際交流協会	〒990-1101 西村山郡大江町大字左沢882-1 大江町政策推進課政策推進係	0237-62-2118
63	りんご国際交流協会	〒990-1320 西村山郡朝日町大字玉ノ井丁202 Daichan Farm Guest House内	0237-68-2301
64	国際ソロプチミスト新庄	〒996-0023 新庄市若葉町4-23 ニューグランドホテル内	(非公開)
65	最上地区国際交流協会	〒996-0023 新庄市沖の町7-27 山形新聞放送最北総支社内	0233-22-3580
66	国際交流ボランティアグループ すまいる	〒996-0091 新庄市十日町3142-2	090-6689-8447
67	国際交流茶館くらぶ “はいっとお～！チャ！Cha！茶！”	996-0071 新庄市小田島町3-31 今川様方	0233-22-1214
68	もがみ国際交流協会	〒999-6101 最上郡最上町大字向町533-10 (株) 押切鐵工所内	0233-43-2251
69	戸沢村国際交流協会	〒999-6401 最上郡戸沢村大字古口270	0233-72-2111
70	アースネットワーク米沢	〒992-0111 米沢市大字下新田2-1 二宮様方	0238-37-4185
71	グローバルコミュニケーションサークル よねざわ	〒992-1451 米沢市大字南原笹野町2952 鈴木様方	0238-38-3576
72	一般社団法人 米沢工業会	〒992-0038 米沢市城南4-3-16 山形大学工学部内	0238-22-7866
73	米沢市国際交流協会	〒992-0012 米沢市金池3-1-14 置賜総合文化センター1F	0238-33-9146
74	米沢市関地区日中友好協会	〒992-1472 米沢市大字関270番地	0238-38-4156
75	米沢市日中友好協会	〒992-0052 米沢市丸の内1-1-11 山形新聞置賜総支社	0238-23-3222
76	米沢・モーゼスレイク友好親善協会	(非公開)	(非公開)
77	日仏交流の会 バザパ	〒992-0044 米沢市春日2-7-56	0238-23-0734
78	中国文化研究会	〒992-1442 米沢市芳泉町2545 有留様方	0238-38-2108
79	山形中華總會	〒992-0025 米沢市通町4-7-28	0238-24-1161
80	一般社団法人 支倉常長日西文化協会	992-1123 米沢市万世町桑山4311	0238-28-4649
81	言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ山形	〒992-1443 米沢市笹野6145	0238-38-4503
82	置賜百姓交流会	〒993-0061 長井市寺泉1483	0238-84-3196
83	国際ソロプチミスト長井	〒993-0006 長井市あら町4-55	0238-84-3360

No	団体名	所在地	電話番号
84	長井日中友好協会	〒993-8601 長井市ままの上5-1 長井市役所総合政策課内	0238-87-0714
85	長井バートゼッキングクラブ	〒993-0012 長井市日の出町9-6 竹田様方	0238-88-4537
86	～世界と楽しくつながる～ アクショングループながい	〒993-0016 長井市台町23-20	0238-84-1869
87	南陽市日中友好協会	〒999-2292 南陽市三間通436-1 南陽市役所みらい戦略課内	0238-40-3211
88	国際ソロプチミスト高島	〒992-0301 東置賜郡高島町大字二井宿1012	0238-52-0528
89	高島にほんごボランティアの会	〒992-0351 東置賜郡高島町大字高島823	0238-52-1888
90	高島町国際交流協会	〒992-0351 東置賜郡高島町大字高島906 高島町総合交流プラザ	0238-52-5702
91	まほろば日中友好会	〒992-0351 東置賜郡高島町大字高島906	0238-52-5702
92	置賜の地域文化を考える会	〒999-0121 東置賜郡川西町上小松3667	0238-42-2637
93	川西町国際交流協会「煌」	〒999-0601 東置賜郡川西町西大塚411-1	0238-54-0202
94	白鷹町国際交流協会	〒992-0821 西置賜郡白鷹町大字十王5687-8 パレス松風内	0238-85-1001
95	飯豊町国際交流協会	〒999-0604 西置賜郡飯豊町大字椿3622 飯豊町町民総合センター「あ～す」内	0238-72-3111
96	庄内国際交流協会	〒997-0827 鶴岡市陽光町17-11	0235-24-2644
97	鶴岡田川地区日中友好協会	〒997-0802 鶴岡市伊勢原町8-32 出羽庄内国際村内事務局	0235-25-3600
98	鶴岡・ニューブランズウィック友好協会	〒997-0802 鶴岡市伊勢原町8-32 出羽庄内国際村内事務局	0235-25-3600
99	鶴岡ユネスコ協会	〒997-0029 鶴岡市日吉町9-47 般若寺内	0235-23-7563
100	鶴岡・ラフォア友好協会	〒997-0802 鶴岡市伊勢原町8-32 出羽庄内国際村内事務局	0235-25-3600
101	公益財団法人 出羽庄内国際交流財団	〒997-0802 鶴岡市伊勢原町8-32	0235-25-3600
102	庄内日韓親善協会	〒997-0803 鶴岡市伊勢横内字畑福25	0235-25-0562
103	NPO YAMAGATA STORY	〒997-0753 鶴岡市田川字八幡157-3	0235-33-8436
104	鶴岡全国通訳案内士の会チャットチャット	〒997-0831 鶴岡市大西町26-26 ハッピーグローブイングリッシュ内	0235-25-3224
105	出羽庄内国際村日本語教室	〒997-0802 鶴岡市伊勢原町8-32	0235-25-3600
106	鶴岡ライオンズクラブ	〒997-0031 鶴岡市錦町20-20 長谷川ビル3F	0235-28-1128
107	ねこまねき International Wide	(非公開)	(非公開)
108	庄内中南米音楽同好会	〒999-7611 鶴岡市上藤島字街道西22-29 (事務局 今野志都子)	080-3144-5373
109	鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会	〒997-0404 鶴岡市下名川字落合220 朝日中央コミュニティセンター内	0235-53-3560
110	酒田市国際交流サロン	〒998-0044 酒田市中町3-4-5 交流ひろば内	0234-26-5615
111	酒田地区日中友好協会	〒998-0838 酒田市山居町1-5-21 山新放送庄内会館内	0234-22-1580
112	酒田ユネスコ協会	〒998-0034 酒田市中央西町2-59酒田市総合文化センター (郵便物受取のみ)	0234-24-9787

No	団体名	所在地	電話番号
113	日本語学習支援ボランティア『べにばな会』	〒998-0044 酒田市中町3-4-5 交流ひろば内	0234-26-5615
114	V I P S	〒998-0863 酒田市日の出町2-14-7	090-3367-5975
115	酒田市国際交流協会	〒998-8540 酒田市本町2-2-45 酒田市国際交流協会事務局酒田市交流観光課	0234-26-5809
116	庄内町国際交流協会	〒999-7781 東田川郡庄内町余目字町132-1 庄内町役場情報発信課内	0234-42-0228
117	協力隊を支援する『やまがた地球家族の会』	〒999-7725 東田川郡庄内町沢新田151	0234-42-1458
118	庄内観光コンベンション協会	〒997-1392 東田川郡三川町大字横山字袖東19-1	0235-68-2511
119	日本ハンガリー友好協会山形県支部	〒999-8437 飽海郡遊佐町藤崎一の坪44	(非公開)
120	遊佐町国際交流推進協議会	〒999-8301 飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211番地	0234-72-4523
121	遊佐町日本語講座	〒999-8301 飽海郡遊佐町字鶴田52-2 遊佐町生涯学習センター	0234-72-2236
122	遊佐町国際交流協会	〒999-8301 飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211番地	0234-72-4523

詳細は同協会のホームページを参照 ((公財)山形県国際交流協会調べ)
(<http://www.airyamagata.org/>)